

# 専 門 分 野 I

## 《基礎看護学》

目 的：看護の概念および人間のライフサイクルにおける健康の意義を理解し、健康のあらゆるレベルにある対象の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を修得する。

- 目 標：1. 看護の目的と機能を理解する。  
2. 人間の特徴を学び、看護の対象を理解する。  
3. 対象に応じた看護が展開できるための基礎的知識・技術・態度を修得する。

**科目名：基礎看護学概論Ⅰ 単位数：1 時間数：30 1年前期**

**講師：齋藤今日子（専任教員） [実務経験：看護師として竹田総合病院等で11年]**

### 科目設定理由

看護師をめざし入学して間もない学生が最初に学ぶ看護学の導入の科目である。したがって、看護への興味・関心を高め、専門分野Ⅱの看護学につなげられる看護の概観的知識を得られる科目としたい。看護の定義、対象・機能、役割について、看護の歴史や看護の関連組織が示す定義、関係法規、健康にかかわる統計等から幅広く学び、看護の本質について考えられる科目とする。

### 学習目標

1. 看護の目的・対象・方法を理解する。
2. 保健医療チームにおける看護の役割について理解する。
3. これからの看護職の社会的役割と責任を考える。

### 授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1 2 3	看護とは	1. 看護の本質 1) 看護の歴史 2) 看護の定義 2. 看護の役割と機能 1) 看護過程の展開とクリティカルシンキング 2) EBN＝科学的根拠に基づく看護 3. 看護の継続性と情報共有、多職種との連携	講義 グループワーク	
4	看護の対象の理解	1. 人間の「こころ」と「からだ」 2. 生涯発達し続ける存在 3. 生活者としての人間の理解	講義	
5・6	健康のとらえ方と国民の健康状態	1. 健康とは何か 1) 健康の定義 2) ヘルスプロモーション 2. 国民のライフサイクルと健康生活	講義	

		3. 現代の日本人の健康と生活 1) 少子高齢化 2) 健康寿命		
7	看護の提供者	1. 職業としての看護の変遷 2. 看護職の資格と養成にかかわる制度 3. 看護職者の就業状況と継続教育 1) 看護職者の就業状況 2) 専門看護師・認定看護師 3) 特定行為に係る看護師の研修制度	講義	
8・9	看護倫理	1. 職業倫理としての看護倫理 医療専門職の倫理規定 2. 患者の権利とインフォームドコンセント 3. 現代医療におけるさまざまな倫理的問題 1) 倫理原則 2) ケアの倫理・ケアリング	講義	
10・11	看護の提供のしくみ	1. サービスとしての看護 2. 看護をめぐる制度と政策 保健師助産師看護師法 3. 看護サービスと経済のしくみ 医療保険制度	講義	
12	看護理論	主要な看護理論家の看護理論	講義	事前課題
13 14 15		ヴァージニア・ヘンダーソン 「看護の基本となるもの」	グループ ワーク	課題 レポート

評価方法 筆記試験 レポート

テキスト： 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院  
看護覚え書き うぶすな書院  
看護の基本となるもの 日本看護協会出版会  
国民衛生の動向

**科目名：基礎看護学概論Ⅱ 単位数：1 時間数：3 3年前期**

**科目設定理由**

看護は、日々の看護実践の中で臨床的疑問に関して研究が行われ、その成果を積み重ねることで看護に役に立つ知識や理論が生成されてきた。本科目では、研究の意義を理解し、研究方法の基礎的知識を習得する科目とする。さらに、臨地実習での成果や問題をケーススタディすることで、将来実践の場でも活用できる能力を習得する科目とする。

**学習目標**

1. 看護における研究の意義を理解し、基礎的な研究方法を理解する。
2. 事例研究をまとめ、その方法を理解する。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	講師
1	研究の意義	1. 看護における研究の意義 2. 看護実践から得る研究の手がかり	講義	佐藤敬子 (専任教員)
2	文献検索	文献検索の方法と実際 各自の研究課題を基に検索する	演習	招致講義 図書司書
3	研究課題	1. 文献検索の意義 2. 研究課題と文献検討	講義	臨床心理士 (竹田綜合病院)
4	研究デザイン	研究デザインの種類と特徴	講義	
5~6	データ収集と分析	データの種類と分析の方法	演習	
7	結果の解釈	解釈		
8	研究と倫理	看護研究における倫理		
9	事例研究の実際	事例研究をまとめるために		教員
10~ 15	事例研究の実際	事例をまとめる 発表する	演習	

**評価方法** レポート

テキスト：看護学生のためのケーススタディ メヂカルフレンド社

**科目名：基礎看護学概論Ⅲ 単位数：1 時間数：15 3年前期 講師：佐藤敬子（専任教員）**

**科目設定理由**

看護の対象は、さまざまなニーズをもちながら自己実現をめざして生きている存在である。そのため看護の実践においては、看護の対象となる人の価値観を尊重した倫理的判断が求められる。基礎分野の「生命と倫理」で学んだ基本的人権の尊重をふまえて、看護師としての責務を果たすために必要な看護場面における倫理的な意思決定と行動につながる知識・技術・態度を学ぶ科目とする。

**学習目標**

1. 看護職に必要な倫理に関する基礎的知識を理解し、倫理的課題を考察する。
  - 1) 看護者の倫理的責任（人の尊厳と患者の権利、看護者の倫理綱領）を理解する。
  - 2) 倫理的意思決定に必要な基礎知識を理解する。
2. 倫理的感受性・倫理観を高める。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1	倫理の意義と必要性	倫理とは何か 看護職としての倫理の必要性	講義	
2	看護職の倫理的責任	患者の権利 看護者の法的責任 看護者の倫理的責任	講義 グループ討議	
3	看護職の倫理規定	学生が考える倫理規定	グループ討議	
4	看護職の倫理規定	倫理綱領（日本看護協会）	講義 グループ討議	
5	倫理的意思決定プロセス	倫理問題分析モデル サラ・フライ	講義 グループ討議	
6	倫理的意思決定プロセス	倫理問題分析モデル アルバート・ジョンセン	演習	50分
7	援助の中の倫理	倫理に関するエピソード	エッセイ DVD	事前課題 レポート
8	死生観	臨床事例から死を考える 一人間の尊厳を考慮してー	グループ討議 個人レポート	レポート

事前課題 「臨地実習の中での体験をもとに」事前に提示

評価方法 レポート

テキスト：基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院

科目設定理由

人間にとって食事・排泄は生命を維持するうえで必要不可欠な行為であり、何らかの原因で困難になったとき、人は生命の危機に直面する。食事は人間関係構築や幸福感など心理・社会的意義も大きい。そして、排泄は、疾患や治療上の制限で自分でできなくなった時、心理面への大きな影響がある。援助する上では、対象者の状況や価値観を重視した看護が求められる。そこで、対象者の状況や治療上の制限、対象者のニーズに即した安全・安楽な食事・排泄の看護技術を学ぶ科目とする。

学習目標

1. 環境が人間に及ぼす影響を理解する。
2. 快適な環境を整えるための必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。
3. 人間にとっての活動と休息の意義を理解する。
4. 運動と休息の援助を行うために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。
5. 安全な医療を提供するための感染予防に関する基礎的知識・技術・態度を習得する。

授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1	環境の意義	1. 環境の意義 2. 健康な生活を送るための環境条件	講義	50分
2	環境調整と看護の役割	1. 快適さを保つための病院環境 2. 病室内環境の構成因子と看護 3. 環境のアセスメント	講義 (実習室)	
3	基本的活動についての基礎知識Ⅰ	1. ボディメカニクス技術の基本 2. 看護技術に活かすボディメカニクス	講義・演習 (実習室)	50分
4	病床の作り方Ⅰ	1. 寝心地のよいベッドを作るための要素を考える 2. 効率的なリネンのたたみ方を考える 3. くずれにくい下シーツの作り方を考える	講義 グループワーク (実習室)	
5	病床の作り方Ⅱ	1. リネンの準備、たたみ方 2. ベッドメイキング	学内実習	教員4名
6	基本的活動についての基礎知識Ⅱ	1. よい姿勢とは 2. 姿勢による生理学的影響 3. 日常生活動作（ADL）とは 4. 活動援助の意義と種類 5. 活動制限による影響	講義	
7	休息（睡眠）についての基礎知識	1. 休息・睡眠の意義 2. 休息・睡眠のメカニズム 3. 睡眠障害の原因と症状 4. 睡眠を促す援助方法	講義 グループワーク	
8	活動・休息の援助方法	1. 体位の種類と身体的特徴 2. 安楽な体位を保つ方法 3. 移動・移乗・移送の方法	講義 (実習室)	
9	体位変換と移動・移乗・移送	安楽な体位の保持、安全・安楽な身体の移動・移乗・移送について考える 1. ポジティングによる安全性と安楽性の確保 2. ボディメカニクス技術の活用 3. 安全で安楽な移動・移乗・移送 1) ベッドからの移乗方法 2) 移送の方法（車椅子・ストレッチャ	講義 グループワーク (実習室)	

		ー・担架) 3) 歩行の援助方法		
10	褥瘡の基礎知識と看護	1. 褥瘡とは 2. 褥瘡発生の要因 3. 褥瘡の好発部位 4. 褥瘡の分類 5. 褥瘡の予防方法 6. 褥瘡の治療と看護	講義	認定看護師 (竹田綜合病院)
11	活動・運動の援助 I	体位変換 1. ベッド上での水平移動 (右側移動) 2. 仰臥位から側臥位 (左側臥位) 3. 仰臥位→長座位→短座位→車椅子 4. 転倒・転落・事故防止	学内実習	教員 4 名
12	活動・運動の援助 II	移乗・移送・歩行の援助 1. 車椅子による移送の方法 2. ベッドからストレッチャーへの移乗 3. ストレッチャーによる移送の方法 4. 歩行の援助方法	学内実習	教員 4 名
13	感染予防の基礎知識	1. 感染成立の条件 2. 標準予防策 (スタンダードプリコーション) 1) 標準予防策の意義 2) 標準予防策の内容 3) 標準予防策の方法 3. 感染経路別予防策 4. 洗浄・消毒・滅菌	講義	認定看護師(竹田綜合病院)
14	感染予防の基礎知識	1. 無菌操作 1) 無菌操作とは 2) 滅菌物の保管方法と取り扱いの基本 3) 無菌操作の方法 2. 感染性廃棄物の取り扱い	講義 (実習室)	認定看護師(竹田綜合病院)
15	感染予防の実際	1. 標準予防策の実際 1) 衛生的手洗い 2) 個人防護用具の着用と外し方 (ガウンテクニック含む) 3) 感染性廃棄物の廃棄方法 2. 無菌操作の実際 1) 滅菌手袋の着脱 2) 滅菌物の取り扱い (鑷子・滅菌ガーゼ・滅菌包・滅菌バッグの開封から受け渡し・消毒綿球の扱い方など	グループワーク (実習室)	認定看護師(竹田綜合病院)
16		1. 防護用具の着用方法と外し方 2. 滅菌物の取り扱い 3. 滅菌手袋の着脱	学内実習	認定看護師(竹田綜合病院) 他教員 3 名

評価方法 筆記試験 実技試験

テキスト：基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院  
看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会  
看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア

**科目名：基礎看護学方法論Ⅱ 単位：1 時間：30 1年前期**

**講師：間瀬陽子（専任教員） [実務経験：看護師として竹田総合病院で17年]**

**科目設定理由**

人間は環境と相互に影響しあって生きており、活動・休息のバランスが上手にとれることは身体的・心理的・社会的な調和やその人らしく生活できることにつながる。感染予防に関する知識・技術を習得することは人間がより健康に過ごすために欠かせない。基礎看護学方法論Ⅰでは、より健康で安全・安楽に生活するために必要な環境調整、活動・休息、感染予防に関する基本的な知識・技術・態度について学ぶ科目とする。

**学習目標**

1. 身体の清潔の意義と生理学的メカニズムを理解し、全身の皮膚・粘膜の清潔を保持する援助方法を理解する。
2. 対象者の清潔に関するニーズをアセスメントし、適切な援助方法を選択し実施できる。
3. 実施した援助を評価できる。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1	清潔の基礎知識	1. 清潔の意義 2. 皮膚・粘膜の構造と機能 3. 全身を清潔に保つ方法 4. 清潔援助が生体に及ぼす影響 1) 入浴 2) マッサージ 3) 洗浄剤	講義 グループ ワーク	
2	清潔のアセスメント	1. 皮膚・粘膜・爪・毛髪の観察 2. 清潔のニーズ 3. 清潔のニーズを阻害する要因 4. セルフケアの程度	講義 グループ ワーク	
3	清潔援助の方法	1. 口腔ケア 2. 清拭（熟布を含む） 3. 部分浴 4. 陰部洗浄 5. 洗髪	グループ ワーク	課題
4	清潔援助の実際と観察 (1)	1. 口腔ケア 2. 義歯の取り扱い	学内実習	
5 6	清潔援助の実際と観察 (2)	1. 臥床患者の清拭	学内実習	教員4名
7	清潔援助の実際と観察 (3)	1. 部分浴 1) 手浴・足浴	学内実習	教員4名
8	清潔援助の実際と観察 (4)	1. 陰部洗浄	学内実習	50分
9	清潔援助の実際と観察 (5)	1. 臥床患者の洗髪	学内実習	教員4名
10	衣生活の基礎知識と アセスメント	1. 病衣交換の意義 2. 病衣の管理 3. 病衣交換の方法 4. 衣生活のアセスメント 5. 寝衣交換と共に行う理念交換	講義 グループ ワーク (実習室)	課題

11	清潔援助の実際と観察	1. 臥床患者の寝衣交換・リネン交換	学内実習	専任教員
12	事例演習	1. 事例に沿ったアセスメント、計画立案、実施、評価 ＜事例＞ 輸液ライン等が入っている患者の寝衣交換、患者の病態・機能に合わせた口腔ケア、洗髪など	講義 グループワーク	課題
13			学内実習 ロールプレイング	教員 4 名
14			グループワーク	
15			学内実習 ロールプレイング	教員 4 名
16			グループワーク	50 分

評価方法 筆記試験 実技試験

テキスト： 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院  
看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版  
看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア



科目名：基礎看護学方法論Ⅲ 単位：1 時間：30 1年前期

講師：猪俣沙織（専任教員） 高野真智子（専任教員）

### 科目設定理由

人間にとって食事・排泄は生命を維持するうえで必要不可欠な行為であり、何らかの原因で困難になったとき、人は生命の危機に直面する。食事は人間関係構築や幸福感など心理・社会的意義も大きい。そして排泄は、疾患や治療上の制限により自立が妨げられたとき、心理面への大きな影響がある。援助する上では、対象者の状況や価値観を重視した看護が求められる。そこで、対象者の状況や治療上の制限、対象者のニーズに即した安全・安楽な食事・排泄の看護技術を学ぶ科目とする。

### 学習目標

1. 健康生活における食事の意義を理解する。
2. 対象の状態に応じた食事の援助を行うために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。
3. 人間にとっての排泄の意義を理解する。
4. 対象の状態に応じた排泄の援助を行うために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。

### 授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1	食事の基礎知識	1. 食事の意義 2. 消化吸収のメカニズム	講義	50分
2	食事の援助の基礎知識 ①	1. 栄養状態のアセスメント 2. 水分・電解質バランスのアセスメント 3. 食欲のアセスメント 4. 摂食・嚥下能力のアセスメント 5. 患者の認識・行動のアセスメント 6. 医療施設での食事の種別と種類	講義	
3	食事の援助の基礎知識 ②	1. 食事援助の基本 2. 食事行動に制限のある患者への食事援助の基本 3. 摂食・嚥下障害のある患者への摂食・嚥下訓練の基礎知識	講義 グループワーク	
4	食事の援助の実際	安静が必要な患者・視力障害・片麻痺のある患者の食事援助（食事のセッティング・部分介助・全介助）	学内実習	
5	非経口的栄養摂取法の基礎知識	1. 経管（経腸）栄養法の基礎知識 2. 経管（経腸）栄養法の援助 3. 経静脈栄養法における中心静脈栄養法に伴う合併症	講義 グループワーク	
6	経鼻胃カテーテル挿入	経鼻胃カテーテル挿入の実際	学内実習	教員4名
7	排泄の基礎知識	1. 排泄の意義 2. 排尿・排便のメカニズム 3. 排尿・排便のアセスメント（正常・異常） 4. 排泄の援助におけるアセスメント視点	講義	

8	排泄の援助の基礎知識	1. 自然な排泄を促す援助 2. トイレにおける排泄介助 3. ポータブルトイレでの排泄援助 4. 床上排泄の援助（尿器・便器） 5. おむつによる排泄援助（失禁をしている患者のケア含む）	講義	
9	排泄の援助の実際	尿器（床上安静患者） ポータブルトイレ（病室内の安静患者）	学内実習	教員4名
10		便器（床上安静患者）・おむつ交換	学内実習	教員4名
11	排便を促す援助	1. 便秘のアセスメント 2. 便秘改善のための看護ケア 3. 浣腸の定義・目的・種類・方法・適応と禁忌 4. 摘便の定義・方法、適応と禁忌	講義 グループワーク (実習室)	
12	排便を促す援助の実際	浣腸（グリセリン浣腸） 摘便	学内実習	教員4名
13	排尿障害に対する援助と導尿の基礎知識	1. 頻尿・失禁・尿閉に対する看護 2. 一時的導尿の目的・適応・禁忌と方法 3. 持続的導尿の目的・適応・禁忌と方法	講義	
14	導尿の援助の実際	一時的導尿（女性） 膀胱留置カテーテルの管理	講義 グループワーク	
15		一時的導尿（女性）	学内実習	教員5名
16		一時的導尿（男性）	学内実習	50分

**評価方法** 筆記試験 実技試験

テキスト：基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

看護がみえる①・② 基礎看護学技術 メディックメディア

参考文献：看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版社

エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図 中央法規出版

人体の構造と機能〔3〕 栄養学 医学書院

新 食品成分表 東京法令出版

食品交換表 文光堂

科目名：基礎看護学方法論Ⅳ 単位：1 時間：30 1年前期

講師：長嶺聖慈（専任教員） [実務経験：保健師として竹田総合病院で11年間]

科目設定理由

看護に必要な基本となる技術であるコミュニケーションとバイタルサイン測定の意義を理解し、良い人間関係を成立させるために必要なコミュニケーションと、根拠を理解し正しくバイタルサイン測定するための基本的知識・技術・態度を習得するための科目とする。

学習目標

1. 看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、よい人間関係を成立させるために必要なコミュニケーションの基本的知識・技術・態度を習得する。
2. 看護過程において対象者の尊厳と権利を擁護する方法を習得する。
3. 看護における教育的支援の目的や効果的なアプローチ方法を理解する。
4. バイタルサインを測定することの意義を理解する。
5. バイタルサインを測定できる。

授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1	看護技術を学ぶにあたって	看護技術とは 看護技術の特徴 看護技術の範囲 看護技術を適切に実践するための要素 フィジカルアセスメント	講義	
2	コミュニケーションの意義を把握する	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と成立過程 関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義	
3	看護におけるコミュニケーション技法	コミュニケーションスキルを磨く 説明の技術 アサーティブネス 信頼関係の重要性 傾聴、共感、受容の意味 ロールプレイとは	講義 グループワーク	
4	コミュニケーション演習1	ロールプレイ 事例に応じたコミュニケーション ロールプレイを通しての振り返り	演習	
5	コミュニケーション演習2	ロールプレイ 医療現場でのコミュニケーション ロールプレイを通しての振り返り	演習	
6	コミュニケーション障害への対応	コミュニケーション障害がある人の特徴 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 コミュニケーションに障害がある人への関わり方	講義 グループワーク	
7	コミュニケーション演習3	ロールプレイ コミュニケーション障害がある人とのコミュニケーション ロールプレイを通しての振り返り	演習	
8	バイタルサインの基礎知識	バイタルサインの定義と基礎知識 意識の観察	講義	

	意識の観察			
9	呼吸、体温の観察・測定	呼吸の変動要因、正常・異常 呼吸の観察、呼吸測定の方法 体温の変動要因、正常・異常 体温の観察、体温測定の方法 循環（脈拍、血圧）の変動要因、正常・異常 脈拍の観察、脈拍測定の方法	講義 演習	
10	循環（脈拍、血圧）の観察・測定		講義	
11	血圧測定における根拠がわかる	血圧測定に関する疑問点とその根拠	講義 グループワーク	
12	一連の観察の実際①	一連の観察の演習①	演習 (実習室)	
13	一連の観察の実際②	一連の観察の演習②	学内実習	教員4名
14				
15	まとめ	全体の振り返り	講義	

評価方法 筆記試験 実技試験  
 テキスト：基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院

**科目名：基礎看護学方法論Ⅴ 単位：1 時間：30 2年前期**

**講師：永井 純（専任教員） [実務経験：看護師として竹田総合病院で13年]**

科目設定理由

フィジカルアセスメントは、対象の健康状態を総合的に判断し治療や処置が必要かなどを判断する重要な技術である。近年看護の場が病院から在宅へ拡大することで、ますますフィジカルアセスメントの重要性は高まっている。そこでここでは、問診、視診、触診、聴診、打診等フィジカルアセスメントに必要な技術を学びとともに、また、フィジカルアセスメントを学ぶ際にも関連する学習内容が多く、かつ臨床の場でも多くみられる主要な症状の機序、治療、看護について附せて学ぶ科目とする。

学習目標

対象者の健康状態を把握し、適切な看護を提供するためのアセスメントテクニックを理解し、  
 正確に観察できるための基礎的知識・技術・態度を修得する。

授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1	ヘルスアセスメントの意義・目的および技術	1. ヘルスアセスメントの意義と目的 2. ヘルスアセスメントに必要な技術 1) 問診 2) 視診 3) 触診 4) 聴診 5) 打診	講義	

2	ヘルスアセスメントの 実際	1. 全体の概観 1) 全身状態 2) 健康歴 3) バイタルサイン 4) 身体計測 2. フィジカルアセスメント 1) 頭頸部	講義 グループワー ク	
3		2) 呼吸器系	講義 グループワー ク	
4		3) 循環器系	講義 グループワー ク	
5		4) 乳房・腋窩 5) 腹部 6) 筋・骨格系 7) 神経系	講義 グループワー ク	
6		1. フィジカルアセスメントの実践 1) 身体計測（胸囲・腹囲を中心に） 2) 呼吸器系の観察 3) 循環器系の観察 4) 腹部の観察	学内実習	教員4名
7	症状別看護	1. 主要な症状のメカニズム、治療、看護 1) 疼痛 2) 浮腫 3) 不安	グループワー ク	50分
8			発表	
9		4) 発熱 5) 掻痒感 6) 嘔気・嘔吐	グループワー ク	
10			発表	
11				
12		1. 罨法の意義と目的 2. 温罨の活用 1) 事例による罨法の選択	講義 グループワー ク	
13			発表	
14				
15	2) 事例による罨法の実施	学内実習 発表		

評価方法 筆記試験 課題 実技試験

テキスト：基礎看護学 [2] [3] 基礎看護技術 I・II 医学書院  
エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図 中央法規  
看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア

**科目名：基礎看護学方法論VI 単位：1 時間：30 1年後期**

**講師：永井 純（専任教員） [実務経験：看護師として竹田総合病院で13年]**

**科目設定理由**

看護は、看護の対象者を理解し、対象者の抱えている問題や課題を探り、解決に向けての目標を立て支援していく力が求められる。その方法のひとつとして、看護過程のプロセスを理解し、活用できる力を養う科目とする。また、その力は今後の臨地実習の基盤になるだけでなく、将来、看護職として現場で求められる能力の育成となる科目とする。

**学習目標**

1. 看護過程の構成要素とプロセスを理解する。
2. 理論を活用し、紙上事例の看護過程が展開できる。
  - 1) 看護の視点で、病態の理解ができる。
  - 2) 看護の視点で、情報の収集と整理ができる。
  - 3) 既習の知識・文献を活用して、情報を解釈・分析できる。
  - 4) アセスメントの結論を明らかにできる。
  - 5) 看護問題を明確にできる。
  - 6) 看護問題の優先順位を決定できる。
  - 7) 目標を設定できる。
  - 8) 看護計画の立案ができる。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1	看護過程の構成要素とプロセス	1. 看護過程とは 2. 看護過程の構成要素 1) アセスメント 2) 看護問題の明確化 3) 計画立案 4) 実施 5) 評価 ◎事例1を当校の枠組みを用いて展開 1. 解剖生理の確認および病態の理解	講義	課題
2	アセスメントの視点と方法	2. 情報の整理 3. 情報の解釈・分析 4. アセスメントの結論	講義 グループワーク	課題
3	看護問題の明確化	1. 関連図による情報の統合 2. 看護問題の抽出とネーミング	講義 グループワーク	課題
4	計画立案	1. 優先順位の決定方法 2. 計画立案の方法 1) 目標の設定（長期、短期） 2) 解決策（O-P、T-P、E-P）	講義 グループワーク	課題
5	実施・評価	1. 実施の記載方法 2. 評価の記載方法	講義 グループワーク	課題
	演習の進め方	グループワークのルール作り		テキスト ★使用
6 ~ 15	看護過程展開の実際	◎事例2を当校の枠組みを用いて展開 アセスメントから計画立案まで ※演習の進め方詳細は別紙参照	演習 グループワーク	教員4名 演習レポート (個人)

**評価方法** 課題 演習レポート

課題 \*看護過程を展開するためには、形態機能学、病態学、病理学、薬理学などの専門基礎科目をはじめ、これまで学習した知識を活用させることが必要です。自己学習をして臨んでください。

テキスト：基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院

任和子：看護過程展開ガイド 照林社

江崎フサ子他：ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リストヌーヴェルヒロカワ

井上智子他編：疾患別看護過程 医学書院

今日の治療薬 南江堂

臨床検査データブック 医学書院 など

★川島みどり：看護カンファレンス 医学書院

**科目名：基礎看護学方法論Ⅶ 単位：1 時間：30 2年前期**

**講師：横田裕美（実習指導教員） [実務経験：看護師として竹田総合病院で11年]**

**科目設定理由**

看護師の役割は「療養上の世話」と「診療の補助業務」がある。この科目においては「診療の補助業務」を中心とし、看護を実践する基礎的能力を養う。人間にとって、呼吸は生命を維持する為に必要不可欠である。呼吸に問題が生じた際、生命の維持に直面することもあり、適切な看護技術の提供が求められる。また、医療における薬物療法、検査・治療意義を理解し、安全かつ正確に行う技術を習得しなければならない。その為、演習を強化した内容とし、上記を学ぶ科目とする。

**学習目標**

1. 呼吸のニーズに関するアセスメントができ、呼吸を楽にする技術を習得する。
2. 薬物療法の意義・目的および看護師の役割を理解し、与薬を安全かつ正確に行う技術を習得する。
3. 検査・治療の意義および看護師の役割を理解し、実施時の介助方法と検体の採取方法を習得する。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1	呼吸を楽にする援助と方法①	1. 呼吸困難とは 2. 呼吸のニーズに関するアセスメント 3. 呼吸法 4. 排痰法の目的・種類と方法・観察 1) 体位ドレナージ 2) 喀痰介助・ハフイング 5. 吸入の目的・種類と方法・観察 1) 薬液吸入 2) 気管内加湿 6. 酸素吸入療法（酸素療法） 1) 酸素吸入時の原則 2) 各種酸素投与器具とその特徴 3) 酸素流量計・酸素ポンベの取扱い、操作方法 4) 酸素療法を受けている人の観察	講義 (実習室)	

2	呼吸を楽にする援助と方法②	1. 体位ドレナージ 2. 気管内加湿 3. 酸素吸入療法 4. 酸素ボンベの操作	学内実習	
3	吸引技術①	1. 吸引の目的・種類と方法 1) 口腔・鼻腔吸引 2) 気管内吸引 気管内吸引時の観察点	講義 グループワーク	
4	吸引技術②	口腔・鼻腔・気管内吸引	学内実習	教員4名
5	薬物療法における援助方法 与薬1-①	1. 薬物療法における看護師の役割 2. 薬物療法における安全管理 1) 薬剤の管理方法(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む) 2) 誤薬防止の手順に沿った与薬 3. 与薬の種類と援助方法 1) 経口(内服・口腔内)与薬 2) 直腸内与薬 3) 点眼・点鼻 4) 経皮的与薬	講義	
6	薬物療法における援助方法 与薬1-②	1. 直腸内与薬	学内実習	50分
7	薬物療法における援助方法 与薬2	1. 注射法による薬物療法 1) 注射の目的 2) 注射の合併症、安全・安心な注射法 3) 注射に必要な器具と使用方法 (1) 注射用具の名称 (2) 注射器、注射針の接続 (3) 薬液容器の取扱(アンプル、バイヤル) (4) 使用器具の後片付け ・針刺し事故防止の対策の実施 ・針刺し事故後の感染防止の方法	講義 グループワーク (実習室)	
8	注射技術①	1. 皮内・皮下・筋肉注射の援助方法 1) 皮内・皮下・筋肉注射とは 2) 注射部位 3) 注射方法 2. 注射部位の選択方法	講義 グループワーク (実習室)	
9	注射技術②	皮下注射 注射準備～実施	学内実習	教員4名
10	注射技術③	筋肉注射 注射準備～実施	学内実習	教員4名
11	注射技術④	1. 静脈内注射・点滴静脈内注射の援助方法 1) 静脈内注射・点滴静脈内注射とは 2) 注射部位 3) 注射方法 4) 静脈内注射の留意事項 5) 点滴静脈内注射の輸液管理	講義	50分



12	注射技術⑤	1. 静脈内注射・点滴内静脈注射の援助法 2. 輸液ポンプ、シリンジポンプ 1) 使用目的 2) 操作方法	講義 グループワーク (実習室)	
13	注射技術⑥	点滴静脈内注射	学内実習	教員4名
14	注射技術⑦	輸液ポンプ、シリンジポンプ操作方法	学内実習	教員4名
15	輸血療法	1. 輸血療法 1) 輸血療法の種類と適応 2) 主な血液製剤と保存方法 3) 輸血の方法と事故防止	講義 グループワーク	50分
16	検査時の看護師の役割	1. 検査の目的 正確な検査が行えるための患者の準備、検査の介助、検査後の安静保持の援助、検査前・中・後の観察 2. 検体検査と生体検査 1) 検体検査の種類と検体の採取・取扱 (血液、尿、便、痰、尿比重測定) 3. 生体検査時の看護 身体侵襲を伴う検査の目的・方法、検査が生体に及ぼす影響 4. 静脈血採血 1) 静脈血採血の方法、留意点	講義	
17	静脈血採血②	静脈血採血の方法	学内実習	教員4名

評価方法 筆記試験 実技試験

テキスト：基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア

看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア

**科目名：基礎看護学実習Ⅰ 単位：1 時間：45 1年前期・後期**

**科目設定理由**

臨地実習は看護学の中の一教科として重要な位置を占めている。基礎看護実習は1年次から2年時にかけて3つに分けて学習する。まず入学後間もない学生に見学実習を設け、看護の対象である患者の理解や医療環境を知る機会を提供する。1年次後期の実習では、学内講義や演習で習得した基礎的知識・技術・態度を実際に統合して初めて患者の援助をする実習とする。その後の学習を深めるための基盤となる科目とする。

**学習目標**

看護の対象および看護の機能を理解すると共に、健康障害のある対象の援助の必要性を理解する。

**授業計画**

回数	学習課題	行動目標	学習形態	備考
1	健康障害をもつ対象を取り巻く医療環境を知る。	1. 対象およびその家族の表情、行動、考えていること等を知る。 2. 医療施設で働いている人々や主な仕事を知る。 3. 医療施設の構造・設備を知る。	見学実習 竹田総合病院 各病棟	7時間
2	援助の必要性を理解し、患者の状態に合わせた看護ができる。	1. 患者との人間関係を築くための基本的態度を身につける。 2. 患者とのかかわりを通して、援助の必要性を理解する。 3. 援助計画が立案でき、実施・評価できる。 4. 医療チームの一員として責任ある行動がとれる。	病棟実習 竹田総合病院 各病棟	38時間

評価方法・基準

実習記録

実習態度

**科目名** : **基礎看護学実習Ⅱ**    **単位** 2    **時間** 90

**科目設定理由**

一人の患者を受け持ち看護を展開する。既習の問題解決思考のプロセスを用いて看護実践できることを目標としている。受け持ち患者とのコミュニケーションや観察を通して、その健康状態を評価し、日常生活上の看護問題を導き、看護計画・実施・評価する内容である。行った看護が適切であったか、さらにどのような看護が必要であったか、カンファレンスで深めさせる。基礎看護学実習の総まとめの科目として、専門分野Ⅱの基盤となる科目とする。

**学習目標**

看護の視点から対象を理解し、対象に必要な看護が実践できる。

**授業計画**

回数	学習課題	行動目標	学習形態	備考
1	患者との人間関係が築ける	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の言動、態度、表情に関心を向け、患者の気持ちを察することができる。</li> <li>2. 自分の意見を患者・家族に伝えることができる。</li> <li>3. 相手の立場を尊重し、丁寧な言葉で会話ができる。</li> </ol>	病棟実習 竹田綜合病院 各病棟	
	日常生活の援助を中心に看護過程が展開できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の視点から受け持ち患者の情報を収集し、記述できる。</li> <li>2. 患者の困っている点から援助を実施し、その援助の必要性を明らかにできる。</li> <li>3. 関連図を作成し、情報間の関連を明らかにできる。</li> <li>4. 情報の意味を根拠をもって解釈し、その内容が記述できる。</li> <li>5. 原因や誘因を明確にした看護問題の記述ができる。</li> <li>6. 看護問題の優先順位が決定できる。</li> <li>7. 看護目標が設定できる。</li> <li>8. 看護目標に沿って具体的な援助方法が立案できる。</li> <li>9. 患者の反応を確認しながら実施できる。</li> <li>10. 実施した援助の評価ができる。</li> </ol>		
	医療チームの一員として責任ある行動がとれる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームの一員として報告・連絡・相談ができる。</li> <li>2. 礼儀・身だしなみ・言葉遣いが適切である。</li> <li>3. 自己の健康管理ができる。</li> </ol>		

評価方法    実習記録    実習態度

# 専 門 分 野 II

## 《精神看護学》

### 目 的

あらゆるライフサイクルにある人の精神の発達とそれに影響を与える要因を理解し、精神の健康の保持増進および回復を促進させるための看護に必要な基礎的知識・技術・態度を修得する。

### 目 標

1. ライフサイクルにおける精神の発達・健康について理解する。
2. 社会の変化に伴う精神保持医療の変遷について学び、現状の問題や課題を理解する。
3. 精神の危機状態や精神を障害された人を理解し、対象への援助の方法を理解する。
4. 精神看護の展開される場と方法を学び、精神保健医療チームの中における看護の役割を理解する。

**科目名：精神看護学概論 単位：1 時間：30 1年前後期 講師：渡辺恵美子（専任教員）**

### 科目設定理由

精神科医療を取り巻く現状としては、急性期の治療が中心となる一方で、長期入院患者はまだ多い。さらに、メンタルヘルスの問題は職場におけるうつ病、災害時のケアなど様々である。本科目は、精神看護学の位置づけと精神看護学全体を理解するとともに、精神看護学方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの導入になるものである。そこで、精神看護の基本的な概念、心のはたらきと健康状態、精神保健福祉に関する歴史的変遷と法制度、地域精神保健活動における社会資源、精神看護における理論を活用した介入の方法を学び、あらゆる看護の基盤となる知識、技術の概要を学ぶ科目とする。

### 学習目標

1. 精神看護の対象と目的を理解する。
2. こころの発達とその危機的状況を学び、その援助方法について理解する。
3. 精神保健医療の変遷を学び、精神医療の現状と課題を理解する。

### 授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1	精神看護学の基本的な概念	1. 精神看護学の目的、対象、特徴 2. 精神の健康と障害	講義	
2	心のはたらきと健康状態に応じた看護	1. エリクソンの漸成的発達理論 2. 防衛機制	講義	
3		3. 危機的理論 4. ストレスへの対処（コーピング）	講義	
4		5. 事例を用いた危機への介入	グループワーク・発表	課題 1
5		6. DVDの視聴から心の健康の保持・増進・回復への看護を考察する	グループワーク・発表	
6				

7	精神保健・医療・福祉の歴史の変遷と法制度	1. 諸外国における精神保健・医療・福祉の歴史の変遷と法制度	グループワーク	
8		2. 日本における精神保健・医療・福祉の歴史の変遷と法制度	グループワーク・発表	V T R
9	患者－看護師関係と自己洞察	1. ペプロウの人間関係論 1) 看護師－患者関係の諸段階 2) プロセスレコード	講義	
10		3) プロセスレコードの実際 ・ロールプレイから	講義	
11		・日常の場面から	グループワーク・発表	課題 2
12	理論を活用した看護過程の展開	1. オレムのセルフケア理論 2. オレム・アンダーウッドモデル	講義	
13		3. 事例を用いたセルフケアのアセスメント	グループワーク・発表	
14	地域精神保健活動における社会資源	精神障害者に対する支援サービス	招致講義	就業支援施設長
15	まとめ	1. 精神保健・医療・福祉に関する最近のニュース、トピックス 2. 全体のふりかえり	グループワーク 講義	

評価方法 筆記試験 レポート

テキスト：精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院

精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院

**科目名：精神看護学方法論Ⅰ 単位：1 時間：30 1年後期**

**科目設定理由**

ライフサイクルにおいて人は、様々な危機を乗り越えながら発達していく。しかし、その中では、いじめや児童虐待、過敏性大腸症候群、摂食障害など、こころの問題がさまざまな形であらわれることもある。このような問題を取り扱うためには、背景にある生活史や親子関係、学校教育にも目を向けなければならない。そこで、人格の発達、ライフサイクル各期の発達課題から、関連する問題を理解する。また環境が精神に与える影響を、学校、家族、職場、社会の面から理解するための科目とする。

**学習目標**

1. ライフサイクルにおける精神の発達と関連問題を理解する。
2. 環境と精神の働きについて理解する。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	講師	
1	人格の発達と情緒体験	親子関係とこどもの情緒関係	講義	臨床心理士 (竹田総合病院)	
		・対象関係論			
		・愛着			
2	人生各期の発達課題	乳幼児期の特徴と危機	講義		
		学童期～思春期の特徴と危機			
		・いじめ ・不登校 ・軽度発達障害	講義		
		青年期の特徴と危機			
		成人期の特徴と危機			
中年期の特徴と危機					
5	老年期の特徴と危機	講義			
6	ストレスに対する身体的反応	心身症：過敏性大腸症候群、過敏性膀胱、過呼吸	講義		専任教員 渡辺恵美子
7		神経症性障害・不安神経症： パニック障害、身体表現性障害、 解離性（転換）障害	講義		渡辺
8	家族とその支援	家族を見る視点	講義		渡辺
9		家族の課題：アルコール依存症	講義		
10		配偶者間暴力	講義		
11		児童虐待	講義		
12		精神障害	講義		
13	現代社会とこころ	現代社会の特徴 現代社会とこころの問題： 自殺	講義	招致講師	
14		不登校	講義	渡辺	
15		摂食障害、自傷行為	講義		

**評価方法・基準** 筆記試験

テキスト：精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院  
 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院

**科目名：精神看護学方法論Ⅱ 単位：1 時間：15 1年後期**

**科目設定理由**

精神疾患により長期入院を余儀なくされている患者は多いが、外来治療を受けながら社会生活を営んでいる患者の方が圧倒的に多い。すなわち精神疾患は身近な慢性疾患である。従来、精神疾患とよばれてきたものも「精神障害」や「精神および行動の障害」呼ばれるようになった。医学的な視点だけでなく、精神の障害により社会活動の制限や社会参加の困難、社会的不利などの生きにくさが問題であるとされている。そこで、世界標準の診断、分類を学び、主な精神障害の症状、原因、検査、治療を理解する。これにより、精神障害をきたした対象への看護援助に必要な知識を身につけるための科目とする。

**学習目標**

1. 精神障害と主な精神疾患を理解する。
2. 精神を障害された人に行われる検査・治療について理解する。

**授業計画**

回数	学習内容	学習形態	備考	講師名
1	1. 精神障害の診断と分類 (DSMとICD)	講義		医師 (竹田総合病院精神科)
2	2. 主な精神障害の症状、原因、治療 (薬物療法を中心に) 1) 統合失調症 電気けいれん療法			
3	2) 気分障害 (抑うつ、双極性障害)			
4	3) 神経症性障害、ストレス関連障害 (不安神経症、強迫性障害、重度ストレス反応：ASD、PTSD、適応障害、解離性障害、他)			
5	4) 生理的障害および身体要因に関連した行動症候群 (摂食障害、睡眠障害：ナルコレプシー、性同一障害、他)			
	5) 器質性精神障害 (認知症、他) 6) 神経発達障害群 (知的能力障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如、多動性障害、他)			
6	7) パーソナリティ障害 8) 精神作用物質使用による精神および行動の障害 (アルコール依存症、薬物依存症) ゲーム障害 9) てんかん			
7	3. 薬物療法以外の治療 1) 精神療法 (個人療法、集団精神療法、家族療法) 2) 社会療法 (作業療法、精神科リハビリテーション：デイケア) 4. 検査 1) 神経学的身体検査 2) 心理検査		8回目	
8	まとめ		50分	

**評価方法** 筆記試験

テキスト：精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院

**科目名：精神看護学方法論Ⅲ 単位：1 時間：30 2年後期**

**科目設定理由**

精神看護においては、社会復帰への促進に向け、チーム医療の重要性が唱えられて久しい。治療の中心が入院から外来、さらに患者の住む地域へと移行している。その中で看護に期待されている役割は、患者のニーズを的確に把握し、回復を支援する関わりである。そこで、精神の障害によって影響された患者の状態をアセスメントし、求められる看護援助に活用、実践するための知識、技術を身につける。さらに、オレム・アンダーウッドによるセルフケア理論を用いて、紙上事例の看護展開をすることで、看護の実際を学ぶ科目とする。

**学習目標**

1. 精神の健康障害や精神障害によって影響された患者の状態をアセスメントし、看護援助を計画・実施できる能力を身につける。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1	精神看護とは	精神看護の対象と理解 ・精神科の考え方（人権擁護と法律） 精神科倫理綱領について	講義	〈コミュニケーションスキル〉 ・焦点化 ・オープンクエスチョン ・クロズドクエスチョン ・リフレクション ・スケーリングクエスチョン ・リフレーミング ・要約 ・価値観について	看護師 （竹田総合病院精神科）
2	基本的技術	精神看護における観察			
3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	症状別看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不安状態の患者の看護</li> <li>・不眠状態の患者の看護</li> <li>・抑うつ感情の患者の看護</li> <li>・引きこもり状態の患者の看護</li> <li>・せん妄状態の看護</li> <li>・拒絶的な患者の看護</li> <li>・強迫行為のある患者の看護</li> <li>・摂食障害の患者の看護</li> <li>・幻覚妄想の患者の看護</li> <li>・興奮状態の看護</li> <li>・自殺自傷行為がある患者の看護</li> <li>・攻撃的行動をとる患者の看護</li> </ul>			
9	他部門との連携	外来での看護	講義		認定看護師 （竹田総合病院）
10	基本的技術	身体拘束の体験と学習 患者体験	演習	動きやすい服装 スカート・短パン禁止	
11	看護の実際	セルフケア理論(10月中旬事例提示) オレム・アンダーウッド) 〈統合失調症〉	講義		14・15回目 認定看護師 教員
12		事例を用いて、グループ発表①	演習	グループで話し合った内容を各自準備	
13		〈統合失調症〉 事例を用いて、グループ発表②			
14		ロールプレイ		ロールプレイで記入したプロセスレコードを準備	
15		プロセスレコードを用いて ロールプレイの振り返り			

評価方法 筆記試験



テキスト：精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院  
精神看護学[2] 精神看護の展開、医学書院

**科目名：精神看護学実習 単位：2 時間：90 3年前期・後期**

**科目設定理由**

精神病院の環境は、対象の状況に応じて、閉鎖病棟、開放病棟、デイケア、外来などに区分されている。対象となる患者の病態は異なり、治療や看護も異なる。さらに訪問看護も行われている。それらをふまえ精神看護学実習では、さまざまな環境で治療やリハビリテーションを行っている患者とかわる。その中で看護の役割・機能や多職種との協力体制を学ぶ。また、受け持ち患者への看護展開を中心に、既習の知識を統合して、患者と家族の理解を深め、必要な看護を実践できるようにする。看護の方法は看護者自身のコミュニケーション技術が中心となる。そこで、患者とのかかわりをプロセスレコードで振り返ることで、自己の内面の変化を洞察し自己理解や看護観を深めるための科目とする。

**学習目標**

1. 精神に障害のある対象とその家族の理解を深め、精神看護が実践できる。

**授業計画**

回数	学習課題	行動目標	学習形態	備考
1	精神障害のある患者の看護	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 精神障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、患者の状態に合わせた援助ができる。</li><li>2. 患者とのかかわりを振り返り対人関係のプロセスにおける自己の傾向に気づき、課題を明確にできる。</li><li>3. 患者の地域生活を支えるための看護師の役割、社会資源、関連機関・職種との協働・連携について説明できる。</li></ol>	実習  精神科病棟	90 時間

評価方法 実習記録 実習態度

## 《成人看護学》

### 目 的

成人期にある対象の特徴と健康の保持増進の重要性を理解し、あらゆる健康レベルにある成人とその家族に対する看護に必要な基礎的知識・技術・態度を修得する。

### 目 標

1. 成人各期にある対象の特徴及び成人看護の役割を理解する。
2. 成人期にある対象の健康に影響する因子及び健康を保持増進するための看護の役割を理解する。
3. 成人期に起こりやすい疾病・障害の特徴を理解し、健康の状態に応じた看護が実践できるための基礎的知識・技術・態度を修得する。

**科目名：成人看護学概論**

**単位：1 時間 30 1 年前期**

**講師：菅家志津子（専任教員）**

**[実務経験：看護師として竹田総合病院で 15 年]**

### 科目設定理由

急速な人口構造の変化に伴い、少子高齢化の問題に直面しており、成人期にある人の健康を守ることは、現代、そして未来の社会を守ることにつながる。社会状況に対応しながら生活する「大人」を最新のデータや情報から概観したうえで、生涯発達論、生活や仕事といった概念に基づいて大人の生活と健康を論理的に学び、大人である対象の理解を深める。その人らしくあることができるように、そして成人の健康レベルに対応した看護をするための基本となる考え方や方法論や実践的な技術を学ぶことで看護実践の理解を深めるための科目とする。

### 学習目標

1. 成人看護の対象を理解する。
2. 成人期にみられる健康問題およびその看護を理解する。
3. 成人の健康生活を促すための有用な概念を理解する。

### 授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1	成人期にある対象	1. 対象の理解～大人とは 1) 生涯発達の特徴 (1) 生涯発達とは (2) 発達段階・発達課題 (3) 成人期の発達課題の理論 (エリクソン、ハヴィガースト) 2) 成人の区分（成人各期） 2. 対象の生活の場 3. 家族形態と家族の機能	講義 グループ ワーク	課題提示
2		1. 成人各期の発達段階・発達課題の特徴 1) 身体的発達の特徴 2) 心理・社会的発達の特徴 3) セクシュアリティの観点	発表	課題提示

3	成人期の生活と健康	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の経済状況</li> <li>2. 成人を取り巻く環境の諸問題</li> <li>3. 成人のライフスタイルの特徴</li> <li>4. 成人の日常の暮らしの特徴と多様性</li> </ol>	講義 グループワーク	課題 提示
4		<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 人口の静態 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人口の動向と将来推計人口</li> <li>2) 労働力人口の推移</li> <li>3) 世帯構造別にみた世帯数の推移</li> </ol> </li> <li>6. 成人の健康の状況 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生と死の動向</li> <li>2) 健康格差がもたらす問題</li> <li>3) 受療状況</li> <li>4) 職業に関連する健康問題</li> <li>5) メンタルヘルスと自殺</li> </ol> </li> </ol>	発表	課題 提示
5	生活と健康をまもりはぐくむシステム	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健・医療・福祉システムの概要 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 施策の概要</li> <li>2) 健康増進・生活習慣病対策</li> <li>3) 健康への多様なニーズへの対応</li> <li>4) 地域に広がるノーマライゼーション</li> </ol> </li> <li>2. 保健・医療・福祉システムの連携</li> </ol>	講義 グループワーク	課題 提示
6	成人への看護アプローチの基本	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大人の健康行動のとらえ方 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大人の学習の特徴（アンドラゴジー）</li> <li>2) 学習に基づく行動形式</li> </ol> </li> <li>2. 行動変容を促進する看護アプローチ <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 行動変容ステージモデル</li> <li>2) 強みをいかすためのアプローチ</li> </ol> </li> </ol>	講義 グループワーク	課題 提示
7		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係</li> <li>2. 集団へのアプローチの基本</li> <li>3. チームアプローチ</li> <li>4. 意思決定支援、家族支援</li> </ol>	講義 グループワーク	課題 提示
8	成人の健康レベルに対応した看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘルスプロモーションと看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ヘルスプロモーションの定義</li> <li>2) ヘルスプロモーション活動の方法</li> <li>3) 主体的な健康づくりと環境づくり</li> </ol> </li> <li>2. ヘルスプロモーションを促進する看護</li> </ol>	講義 グループワーク	課題 提示
9		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 危機にある人々への支援</li> <li>2. 健康バランスに影響を及ぼす要因とストレスコーピングの強化</li> <li>3. 生活行動がもたらす健康問題とその予防</li> </ol>	講義 グループワーク	夏期休暇中の 課題提示☆

10		1. 慢性病患者の理解 1) 経験する無力感 2) 病みの軌跡 3) 首尾一貫感覚、健康信念モデル ローカス-オブ-コントロール	講義 グループワーク	
11		2. 慢性病との共存を支える看護 1) エンパワメント、エンパワメント-エデュケーション 2) セルフケアとセルフマネジメント 3) コンプライアンス・アドヒアランス	講義 グループワーク	
12		1. 生活習慣病の現状と予防策 1) 生活習慣病の現状 2) 生活習慣病予防策	グループワーク	課題 提示
13 ・ 14		3) 生活習慣病予防に向けた指導 (1) 悪性新生物 (2) 心疾患 (3) 高血圧症 (4) 糖尿病 (5) 脂質異常 (6) 脳卒中 (7) 肥満とやせ (8) COPD (喫煙予防含む)	発表☆	媒体 作り
15	まとめ	全体の振り返り	講義 グループワーク	

評価方法 筆記試験 課題・発表(☆)

テキスト：成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院

国民衛生の動向 厚生統計協会

健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 メディカ出版

**科目名：成人看護学方法論Ⅰ 単位：1 時間：30 1年後期**

科目設定理由

死因の第1位を占めるのは悪性新生物(腫瘍)であるが、その中でも消化器の悪性新生物(腫瘍)が最も多い。このように消化器疾患は、主要な疾患であるとともに国民の健康と密接に関係している。そこで、消化器疾患の中でも代表的な疾患について学び、消化器疾患患者に援助を実施するために必要な知識を身につけるための科目とする。

人口の高齢化に伴い、肺炎や呼吸不全、肺がん、慢性閉塞性肺疾患などの患者数は増加の一途をたどっている。肺炎は、主要4死因にもなっており呼吸器疾患も消化器疾患と同様に国民の健康と密接に関係している。そこで、呼吸器疾患の中でも代表的な疾患について学び、呼吸器疾患患者に援助を実施するために必要な知識を身につけるための科目とする。

## 学習目標

1. 栄養摂取障害患者の看護を理解する。
2. 内視鏡検査・治療を受ける患者の看護を理解する。
3. 呼吸機能障害患者の看護を理解する。

## 授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1	胃・十二指腸潰瘍患者の看護	胃・十二指腸潰瘍の症状と看護 アセスメントの視点と看護	講義		看護師 (竹田総合病院消化器科)
2	潰瘍性大腸炎・クローン病の患者の看護	潰瘍性大腸炎・クローン病の症状と看護 アセスメントの視点と看護	講義		
3	イレウスのある患者の看護	イレウスで保存的療法を受ける患者の看護 アセスメントの視点と看護	講義		
4	肝炎・肝硬変患者の看護	肝炎・肝硬変の症状と看護 (検査・治療とその看護、DIC、PTC含む)	講義		
5	肝がん患者の看護	肝がんの症状と看護 (検査・治療とその看護、腹部エコー、肝生検含む)	講義		
6	胆嚢炎患者の看護 膵炎患者の看護	胆嚢炎の症状と看護 膵炎の症状と看護 (検査・治療とその看護、ERCP含む)	講義		
7	内視鏡検査・治療と看護	消化管内視鏡検査・治療とその看護 EGD, EMR, APC, EVL, 大腸スコープ、ポリペクトミー	講義		看護師 (竹田総合病院内視鏡室)
8	肺炎患者の看護	肺炎患者の看護 病態・症状・検査・治療 アセスメントの視点と看護 抗生物質の投与と観察 呼吸器疾患のおもな症状と看護 呼吸困難時の安楽な体位 喀痰困難時の肺理学療法 喘息発作時の対応と予防指導など	講義		看護師 (竹田総合病院呼吸器科)
9	慢性閉塞性肺疾患患者の看護	慢性閉塞性肺疾患患者の看護 アセスメントの視点と看護	講義		
10	肺がん患者の看護	肺がん患者の看護 病態・症状・治療 アセスメントの視点と看護	講義		
11	自然気胸患者の看護	自然気胸患者の看護 胸腔ドレナージ(低圧持続吸引)の管理含む	講義		
12	肺切除術を受ける患者の看護	肺切除術を受ける患者の看護	講義	14回目	

13	人工呼吸器を装着中の患者の看護 薬物療法と看護	人工呼吸器装着中の患者のアセスメントの視点と看護 呼吸器疾患における服薬指導 抗アレルギー薬、気管支拡張薬 副腎皮質ステロイド薬	講義	デモンストレーション 胸腔ドレナージ、パルスオキシメーター	
14	呼吸器検査・治療・処置を受ける患者の看護	検査・治療・処置を受ける患者の看護 気管支鏡・造影検査時の援助 胸腔穿刺検査時の援助	講義 演習		
15	化学療法を受ける患者の看護	化学療法とは 化学療法を受ける患者のアセスメントの視点と看護	講義		認定看護師 (竹田総合病院)

### 評価方法 筆記試験

テキスト：成人看護学[5] 消化器 医学書院

成人看護学[2] 呼吸器 医学書院

参考文献：エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図、中央法規

臨床検査データブック 医学書院

### 科目名：成人看護学方法論Ⅱ 単位：1 時間：30 2年前期

#### 科目設定理由

周術期看護とは、術前・術中・術後を経て退院するまでの一連のプロセスに関わる看護である。また、術後の患者は状態変化が早く看護の展開も早さが求められる。そこで、術前・術中・術後の看護に加え、感染予防・集中治療の看護を学ぶことで、患者の経時的な変化を捉えるとともに術後の回復を予測し、患者に必要な援助を実施するために必要な知識を身につけるための科目とする。

#### 学習目標

1. 手術を受ける患者の看護を理解する。
2. 手術後急性期にある患者の看護過程の展開の方法が理解できる。

#### 授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1	手術前の看護	外来における手術前の患者の看護 手術前の看護 術後合併症のリスクマネジメント 予防処置と指導 不安の援助 手術前処置	講義		
2	手術中の看護	手術中の看護 体位、体温管理、感染予防、事故防止	講義		看護師(竹田総合病院手術室)
3	感染予防の実際	手術前手洗い ガウンテクニック	講義 演習		

4 5 6	手術後の看護	手術後の看護 急性期にある患者の身体的・心理的・社会的特徴 手術侵襲が及ぼす生体反応の変化 (Moreの理論) 全身管理 中心静脈圧 (アセスメント) 合併症の予防 術後の機能障害と生活訓練 創傷の観察 創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴 中心静脈栄養を受けている患者の観察点	講義	6回目 50分	看護師  (竹田総合病院外科)
7	集中治療の準備	重症集中治療を受ける患者の看護	講義 演習	実習室	
8	ストーマの看護 の実際 術後処置の実際	ストーマを造設した患者の看護、 生活の留意点 ドレーン挿入部処置	講義 演習 学内実習	実習室	認定看護師
9	周手術期の看護 手術後の回復過程 に応じた看護 の展開	事例提示  演習方法は別紙要項配布	演習	演習レポート (個人)  1回50分	教員5名
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

評価方法 筆記試験 演習レポート

テキスト・参考文献 : 臨床外科看護総論 医学書院

臨床外科看護各論 医学書院

周手術期看護1 外来／病棟における術前看護、医歯薬出版

周手術期看護2 術中／術後の生体反応と急性期看護、医歯薬出版

手術期看護3 開腹術／腹腔鏡下手術を受ける患者の看護、医歯薬出版

**科目名：成人看護学方法論Ⅲ 単位：1 時間：30 2年前期**

**科目設定理由**

慢性経過する体表的な疾患として内分泌疾患と代謝疾患が挙げられる。共に長期に渡る自己管理が必要となる。自己管理には食事、運動、必要な薬物療法を続けること等が求められる。昨今病院から地域へと療養環境が生活の場に拡大するなかで、その重要性はますます高まっており、これは本校が標榜している「生活す人々」を支援する観点からも必須の学習内容と言える。以上の点を勘案しここでは内分泌疾患、代謝疾患を持つ患者の看護について主として自己管理に関連する基礎的内容を学ぶとともに、成人看護学概論で学んだ成人期にある学習者の特徴を踏まえた指導方法等の知識を活用し、患者のセルフマネジメントの介入の仕方について代謝疾患の事例演習を通じて学ぶ科目とする。

**学習目標**

1. 代謝・内分泌機能障害患者の看護を理解する。
2. 慢性期にあるセルフマネジメントが必要な患者・家族に対する看護の方法を理解する。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1	慢性期患者の看護	慢性期患者の身体的・心理的・社会的特徴 慢性期にある患者とその家族に起こりやすい健康問題と看護の特徴	講義		認定看護師 (竹田綜合病院)
2	糖尿病患者の看護	治療法の理解 合併症の理解と予防	講義 演習		
3		アセスメントの視点	講義		
4		セルフケアへの援助 フットケア	学内実習		
5 6		生活指導 食事療法、運動療法、薬物療法への援助 ・インシュリン製剤の種類に応じた与薬方法 ・インシュリン製剤を与薬されている患者の観察点	学内実習	・血糖測定 ・インシュリンの自己注射 6回目 - 50分	
7	痛風・高尿酸血症患者の看護	痛風・高尿酸血症患者の看護	講義		
8	甲状腺疾患患者の看護	甲状腺疾患患者の看護	講義		
9 10 11 12 13 14 15 16	代謝機能障害のある患者の看護	セルフマネジメントとは セルフマネジメント支援が必要な人への看護介入の方法 (事例演習)	講義 演習	9回目 50分 演習レポート	

評価方法・基準 筆記試験 80% 演習レポート 20%

テキスト・参考文献：成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院

エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図、中央法規



**科目名：成人看護学方法論Ⅳ 単位：1 時間：30 2年前後期**

**科目設定理由**

循環器疾患は3大死因の一つであり、その予防には、食生活や運動習慣など生活習慣の改善が重要である。長期にわたる自己管理が必要な患者が増加し看護の役割は大きい。病態学Ⅲの循環系疾患の病態生理・検査・治療を関連させ、主な循環機能障害患者の看護を学ぶ内容とする。演習では病態生理や検査・治療の理解から看護の必要性を紙上事例を通して導き、患者・家族が自己管理できるように指導場面のロールプレイングから看護の方法を深められる科目とする。

**学習目標**

1. 循環機能障害患者の看護を理解する。
2. 循環機能障害（慢性期・回復期にある患者）をもつ患者の看護過程の展開の方法が理解できる。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1	虚血性心疾患患者の看護	虚血性心疾患患者の看護 病態・症状・検査・治療	講義		認定看護師 (竹田総合病院 循環器科)
2	虚血性心疾患患者の生活指導	虚血性心疾患患者の生活指導 回復期にある患者の身体的・心理的・社会的特徴 アセスメントの視点と看護	講義		
3	心不全患者の看護	心不全患者の看護 病態・症状・検査・治療 心不全患者の看護と生活指導 アセスメントの視点と看護	講義		
4	経皮的冠動脈形成術の看護 開心術の看護	経皮的冠動脈形成術の看護 開心術の看護	講義		
5	血圧異常患者の看護 不整脈患者の看護 ペースメーカー適応疾患と看護	血圧異常患者の看護 不整脈患者の看護 ペースメーカー適応疾患と看護	講義		
6	心疾患のおもな検査と看護	心疾患のおもな検査と看護 心臓カテーテル検査、心電図 心・血管エコー、心筋シンチグラムなど	講義		
7			演習 (実習室)	心電図測定 50分	
8	薬物療法と看護	循環器疾患における服薬指導 降圧・利尿剤、抗不整脈薬、抗狭心症治療薬、抗凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬など	講義 演習		

9 ~ 16	循環機能障害のある患者の看護 事例による看護過程の展開	事例提示  演習方法は別紙要項配布	演習	1回 50分  レポート (個人)	看護師 (竹田総合病院循環器科) 教員3名
--------------	--------------------------------	-------------------------	----	-------------------------------	-----------------------------

評価方法 筆記試験 レポート

テキスト・参考文献：成人看護学〔3〕循環器、医学書院

エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図、中央法規

**科目名：成人看護学方法論Ⅴ 単位：1 時間：30 2年前期**

**科目設定理由**

放射線医学の進歩を安全に医療の現場に反映させるには、看護師、医師、診療放射線技師をはじめとする医療チームの連携が不可欠である。そのためには、看護師も画像診断や放射線検査・治療の基礎的知識、放射線医療における看護師の役割などの理解は必須である。更に、看護師国家試験出題基準に改定がなされ、放射線医療の理解が求められている。以上の点を勘案し、ここでは放射線検査・治療を受ける患者の看護に必要な放射線検査・治療の基礎的知識を学び、その検査や治療における看護師の役割、放射線治療による有害反応や放射線被曝への看護を学ぶための科目とする。

慢性疾患の増加などの疾病構造の変化や医療技術の進歩、医療安全に関する意識の向上など、医療を取り巻く環境は大きく変化している。慢性疾患の増加に伴い、合併症として腎障害を成人期初期から併発し、透析療法を余儀なくされている患者も増えている現状にある。慢性疾患と向き合い、社会的役割を果たしつつ長期にわたりその治療を受けている患者も少なくない。そのため、慢性腎不全患者の症状や病態生理およびその疾患の治療である透析療法の原理や方法を学び、慢性腎不全患者が病気と向き合って生活していくために必要な看護・指導技術の方法やソーシャルサポートの実際を学ぶための科目とする。

近年の医療の進歩により寿命の延伸がもたらされている。終末期医療においては、延命医療から患者の自己決定を重視した医療へと変遷してきている。死に至る過程は、個人のもつ価値観や人生観などによって異なり、生が多様なように、死もまた多様なものである。その人らしく人生を生き抜く援助こそが、その人らしい最期に結びつくのである。死にゆく人の尊厳を守り、可能な限り苦痛や苦悩を緩和できるよう、緩和ケアの概念や人間にとっての死、全人的苦痛およびその緩和ケアにおける看護師の役割を学ぶ科目とする。更に、事例演習により死にゆく患者とその家族の心理過程を理解し、人生最期のときにある人とその家族を支える緩和ケアおよび看護師の態度や姿勢を身につけるための科目とする。

**学習目標**

1. 放射線検査・治療を受ける患者の看護を理解する。
2. 慢性腎不全および透析治療を受ける患者の看護を理解する。
3. 終末期にある患者の看護過程の展開の方法が理解できる。

授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1	放射線検査と看護	放射線検査、他撮影検査 レントゲン撮影、透視検査（MDL, DDL等） CT, ERCPなど MRI、RI等	講義		看護師 （竹田綜合病院放射線科）
2	放射線治療と看護	放射線治療における看護 ・放射線治療における看護師の役割 ・有害作用と看護 ・放射線被爆と防護			
3	慢性腎不全患者の看護	慢性腎不全の患者の看護 腎疾患に伴う症状と病態生理			
4		慢性腎不全の病期に応じた生活指導			
5	透析治療を受ける患者の看護	透析治療と看護 ・透析療法の適応基準と選択 ・血液透析・腹膜透析の原理・目的・方法と管理	講義		看護師 （竹田綜合病院透析室）
6		・透析中の看護 ・維持透析の生活指導 ・継続を可能とするためのソーシャルサポート			
7	終末期の看護	「緩和ケア」の定義 がん患者が抱える苦痛とQOL 緩和ケアにおける看護師の役割 チームアプローチの必要性	講義		認定 看護師 （竹田綜合病院）
8		がん医療における意思決定（療養場所の選択含む） 意思決定を支えるコミュニケーション 意思決定を支える看護師の役割			
9		終末期の症状と全身状態と緩和ケア がん患者の心の反応と看護 （村田久行氏のスピリチュアルペインとケアの概念枠組）			
10	臨死期の看護	臨死期の患者・家族へのケア 緩和ケアにおける家族が体験する問題 家族ケアにおける看護師の役割 悲嘆と遺族ケア			
11	事例による看護過程の展開	患者の状態に合わせた患者・家族への看護 1. 事前学習してきた内容を共有し、下記の場面に応じた看護を考える ・苦痛を表した場面 ・生と死に関する会話の場面 2. 場面に応じた看護の実践・振り返り 3. 事前学習してきた内容を共有し、下記の場面に応じた看護を考える ・死への不安を訴える場面 ・半昏睡・意識レベルの低下がある場面 4. 場面に応じた看護の実践・振り返り	11・12回目 グループワーク	事前 ・演習 レポート （個人）	認定 看護師 （竹田綜合病院）  教員2名
12			13～15回目 ロールプレイング		
13					
14					
15					

評価方法 筆記試験 演習レポート(事前・演習)

事前課題

- A 1. E・キューブラーロス著「死ぬ瞬間」を読んで、以下のレポートを講義開始前に提出  
1) 死の受容過程  
2) 1) をふまえた看護
2. 成人看護学方法論Ⅴの授業における自己の課題を明らかにする。
- B 1. 提示された事例に基づき、下記内容の自己学習を行い、演習前に提出する。  
1) 病態について理解する。(主な症状と治療)  
2) 患者・家族の心理過程をふまえ、場面ごとにどのような看護が必要なのかを考える。
- \*死の受容過程、村田久行氏の概念枠組み、危機理論、事前課題Aで読んだ書籍などを参考にする。

テキスト・参考文献：臨床放射線医学 医学書院

成人看護学〔8〕 腎・泌尿器 医学書院

エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図 中央法規

E・キューブラー・ロス 「死ぬ瞬間 - 死とその過程について -」 読売新聞社

成人看護学⑦ 緩和ケア メディカ出版

**科目名：成人看護学実習Ⅰ 単位：1 時間：45 2年後期**

科目設定理由

近年、放射線医学の進歩はめざましく、放射線検査や治療が変遷してきている。そして、画像診断力は看護師にも求められる能力とされている。さらに内視鏡検査や治療、手術療法、透析療法なども進歩しており、寿命の延伸への貢献度も高いといえる。検査（放射線・内視鏡）や治療（手術療法・放射線療法・薬物療法・透析療法）の概要を学び、検査や治療を受ける患者の心理に触れ、安全・安楽に検査や治療を受けるために必要な看護師の役割とその援助方法を学ぶための科目とする。

学習目標

1. 検査・治療の概要および看護師の役割を理解する。

授業計画

回数	学習課題	行動目標	学習形態	備考
1	手術室の概要や看護師の役割の理解	1. 手術療法を受ける患者の心理を説明できる。 2. 安全・安楽に手術療法を受けるために必要な看護師の役割とその援助の方法が説明できる。	実習 竹田総合病院 手術室	15 時間
2	血液浄化センターの概要や看護師の役割の理解	1. 透析室を受ける患者の心理が説明できる。 2. 安全・安楽に透析療法を受けるために必要な看護師の役割とその援助の方法が説明できる。	実習 竹田総合病院 透析室	7.5 時間
3	放射線検査・治療の目的や看護師の役	1. 放射線検査・治療を受ける患者の心理が説明できる。	実習 竹田総合病院	15 時間

	割の理解	2. 安全・安楽に放射線治療・検査を受けるために必要な看護師の役割とその援助の方法が説明できる。	放射線科	
4	内視鏡室の概要や看護師の役割の理解	1. 内視鏡検査・治療を受ける患者の心理が説明できる。 2. 安全・安楽に内視鏡検査・治療を受けるために必要な看護師の役割とその援助の方法が説明できる。	実習 竹田総合病院 内視鏡室	7.5 時間

評価方法 実習記録 実習態度

**科目名：成人看護学実習Ⅱ 単位：1 時間：45 3年前後期**

**科目設定理由**

本実習では、周術期、急性期の看護を学ぶ。実習病棟では、術式の進歩により入院日数が短くなってきている現状にある。限られた入院期間の中で、看護の対象の経時・経日的な術後の変化を捉え、その時々でアセスメントを行い、患者に必要な援助を実施する。また、術後の回復を予測し、退院後の生活にも目を向けることも重要な視点である。ICU・HCUでは、急性期看護・生命の危機的状況にある患者への看護について学ぶ。全体を通して、対象の身体面だけではなく、患者の精神的援助や家族への援助の必要性も学ぶための科目とする。

**学習目標**

1. 周手術期にある対象とその家族に必要な看護が実践できる。

**授業計画**

回数	学習課題	行動目標	学習形態	備考
1	周手術期にある患者とその家族に必要な看護の実践	1. 周手術期にある患者の身体的・心理的・社会的特徴が説明できる。 2. 患者の病態を理解し、患者および家族に必要な援助ができる。 3. 手中治療室（ICU・HCU）における患者および家族の看護が説明できる。	実習 竹田総合病院 外科病棟他	

評価方法 実習記録 実習態度

**科目名：成人看護学実習Ⅲ 単位：2 時間：90 3年前後期****科目設定理由**

本実習では、回復期・慢性期の看護を学ぶ。生活習慣病をはじめとした慢性期疾患へと疾病構造は変化してきている。また、急性期の危機的状況乗り越え回復を図る時期であっても再発や合併症のリスクがあり、退院後も再発や合併症に注意して生活していく必要がある。回復期・慢性期とともに長期にわたる自己管理が必要となる。そのため、回復期・慢性期の患者の看護として、その再発予防や合併症予防をふまえた日常生活における健康管理、または症状の段階に応じた個別的な生活指導の方法および必要な社会資源とその活用方法を学ぶための科目とする。

**学習目標**

1. 回復期・慢性期にある対象とその家族に必要な看護が実践できる。

**授業計画**

回数	学習課題	行動目標	学習形態	備考
1	回復期・慢性期にある患者とその家族に必要な看護の実践	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 回復期・慢性期にある患者の身体的・心理的・社会的特徴が説明できる。</li> <li>2. 患者および家族の個別性を反映した生活の改善に向けた指導ができる。</li> </ol>	実習 竹田総合病院 内科病棟	

**評価方法**

実習記録 実習態度

**科目名：成人看護学実習Ⅳ 単位：2 時間：90 3年前後期****科目設定理由**

本実習では、終末期にある患者とその家族について学ぶ。終末期にある患者を受け持ち看護展開する。終末期にある患者、家族の心理過程をふまえた看護が考えられ、必要な看護技術を指導下で実践できることを目標とする。また、終末期にある患者および家族の看護を通して自己の死生観を述べることができるように学びを深める科目とする。

**学習目標**

1. 終末期にある対象とその家族に必要な看護が実践できる。

**授業計画**

回数	学習課題	行動目標	学習形態	備考
1	終末期にある患者とその家族に必要な看護の実践	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期にある対象とその家族の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。</li> <li>2. 対象や家族の希望を尊重し、苦痛を緩和するための援助ができる。</li> <li>3. 対象の希望と安全・安楽・自立を考慮した日常生活の援助ができる。</li> <li>4. 死にゆく人の心理過程が説明でき、患者の心理状態に応じた援助ができる。</li> <li>5. 対象を支える家族に必要な援助ができる。</li> <li>6. 終末期にある対象の看護を通して、自己の死生観を述べることができる。</li> </ol>	実習 竹田総合病院 内科病棟	

**評価方法・基準**

実習記録、実習態度、出席時間を総合して評価する。

## 《老年看護学》

### 目 的

老年期にある対象の特徴を理解し、加齢及び健康障害の程度に応じた高齢者とその家族の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を修得する。

### 目 標

1. 老年期にある対象の特徴を理解し、老年看護の役割を理解する。
2. 高齢者の加齢による機能低下に対する日常生活の援助の方法を理解する。
3. 健康障害をもつ高齢者の看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を修得する。
4. 人生の最終段階にある高齢者の生命と人格を尊重する態度を養う。

**科目名：老年看護学概論**                      **単位：1**    **時間：15**    **1年後期**

**講師名：高野真智子（専任教員）**

**[実務経験：看護師として他総合病院で1年、保健師として竹田総合病院で15年]**

### 科目設定理由

老年期は、平均寿命から数えると平均 20 年程度の期間になると見込まれる。この、短くない老年期に関わる老年看護にあたっては、一人一人の人生を念頭に置きながら健康レベルの多様な水準と場の広がりに対応できる能力が求められている。老いを生きる高齢者に焦点を当て老化理論や発達段階を学ぶ。また、高齢化社会の現状と課題や老年看護の基本的な考え方を身につけるための科目である。

### 学習目標

1. 老年期にある人の特徴を、身体的、心理的、社会的に理解する。
2. 高齢社会と社会保障の現状と課題を理解する。

### 授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1 ・ 2	老年期にある人の特徴を理解する	老年期とは 老いのイメージ 加齢に伴う身体的特徴 発達課題における心理的、社会的特徴	講義 演習	2回目 50分
3	高齢者の統計的指標を理解する	わが国の人口動態と高齢化率 平均余命 高齢者の罹患率、受診率 高齢者の暮らし 世帯・就業・経済の状況	講義	
4 ・ 5	保健医療福祉制度のしくみを理解する	高齢者医療制度 高齢者医療制度のしくみ 老人医療費の現状と課題 介護保険制度 介護保険制度のしくみ 介護保険サービス	講義 講義 グループワーク	
6	高齢者の権利擁護を理解する	高齢者に対する権利擁護 スティグマ、エイジズム、アドボカシー 高齢者虐待	講義 グループワーク	

		成年後見制度 高齢者自立支援事業		
7	高齢化社会の現状と課題について考える	「老老介護」 「胃瘦造設の是非」など	グループ ワーク	
8	老年看護の基本的な考え方を理解する	老年看護のなりたち 老年看護の目ざすもの	講義 グループ ワーク	

評価方法 筆記試験

テキスト：老年看護学 医学書院

国民衛生の動向 厚生統計協会



**科目名：老年看護学方法論Ⅰ 単位：1 時間：30 1年後期**

**科目設定理由**

超高齢社会の現代において、単に寿命の延長だけではなく介護が必要な期間を減らし健康で自律した生活を送ることのできる期間（健康寿命）を延伸することが高齢者保健医療政策の課題となっている。また高齢者の増加に伴い認知症の有病率も上昇すると推計されている。これからますます高齢者が増加する中で高齢者の健康生活を維持するために、また認知症患者を正しくとらえ援助するためにも必要な基礎知識を身につけるための科目とする。

**学習目標**

1. 健康を維持し、老年期をよりよく生きるための支援の方法について理解する。
2. 治療を要する認知症高齢者と家族への看護を実践するための援助方法を理解する。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1 5 8	高齢者の健康生活を維持するための看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康生活に影響を及ぼす因子                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢に伴う社会的環境の変化および活動量の低下</li> <li>・フレイル：加齢に伴う身体機能の低下</li> <li>・加齢に伴う筋骨格運動機能の低下</li> </ul> </li> <li>2. 高齢者の自覚症状からみた運動器疾患の原因と予防                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・骨粗鬆症</li> <li>・変形性関節症</li> <li>・変形性脊椎症</li> </ul> </li> <li>3. 運動能力の変化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>筋力・持久力、歩行の特徴、転倒の要因</li> </ul> </li> <li>4. 健康寿命の延伸と健康生活を維持するための方法                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロコモティブシンドローム、セルコペニア、フレイル</li> <li>・ロコモティブシンドロームを予防するための運動の方法</li> <li>・ヘルスアセスメントの視点</li> </ul> </li> </ol>	講義 演習	1回 50分	長嶺聖慈 (専任教員)
9 5 12	認知症の疾患をもつ高齢者とその家族への援助	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症とは</li> <li>2. 認知症の予防</li> <li>3. 認知症の機序、治療（薬物療法）方法</li> <li>4. 認知症の症状が生活に及ぼす影響</li> <li>5. 認知症の疾患をもつ高齢者への援助の方法                             <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の評価、コミュニケーション方法</li> <li>日常生活の援助</li> </ul> </li> </ol>			認定 看護師 (竹田綜合病院)
13 5 16		<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 認知症の疾患をもつ高齢者と家族に対する倫理的問題</li> <li>7. 認知症の疾患をもつ高齢者と家族の事例を用いた看護の展開</li> </ol>		16回 目 50分	認定 看護師 (竹田綜合病院)

評価方法 筆記試験  
 テキスト：老年看護学 医学書院  
 老年看護 病態・疾病論 医学書院

**科目名：老年看護学方法論Ⅱ 単位 2 時間 45**

**科目設定理由**

成人看護学では臓器別看護について学習する。成人期にある人が疾患を患い回復する過程と高齢者が回復する過程は異なり、高齢者は長い時間を要する。また高齢者は加齢による身体的機能低下に伴い複数の疾患や合併症をもちやすく複雑化しやすい。それに伴い日常生活動作に変化をきたしやすい。病院を退院後、介護を必要とする在宅での生活を余儀なくされることも少なくない。そのため、できる限り健康を維持し自立した生活を送れるよう疾患および介護予防を目的とした看護が必要である。高齢者に多い臓器別疾患に対する看護を学ぶとともに、加齢による機能低下を復習しながら、日頃の食生活や活動ならびに高齢者の心身の健康問題を取り上げ、それに対する保健指導が実践できる能力を養う科目とする。また、死亡時の看護に対する知識・技術・態度を学ぶ科目とする。

**学習目標**

1. 高齢者に特徴的な疾患とその看護について理解する。
2. 高齢者の健康上の問題をアセスメントし、問題の抽出と看護計画の立案ができる。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師名
1 5 8	脳血管・脳神経の疾患をもつ高齢者の看護	1. 高齢者に多い脳血管・脳神経の治療を受ける患者への看護 1) 脳卒中、パーキンソン病の治療を受ける患者のアセスメントと援助の方法 2) 嚥下機能障害の発生要因と援助の方法 3) コミュニケーションの障害の発生要因と援助の方法 4) 廃用症候群を予防するためのアセスメントと援助（CGA評価、褥瘡の予防） 2. 事例を用いた看護の展開	講義 演習	8回目 50分	看護師 （竹田総合病院脳神経病棟）
9	高齢者の健康を維持するために必要な「栄養」「口腔の清潔」「運動」への援助	1. 「栄養」「口腔の清潔」を維持するための援助 1) 以下についての調べ学習 ・咀嚼能力に合わせた食形態の種類 ・家庭で簡単に作れ、栄養バランス、食べやすさを考えた高齢者用食品 ・誤嚥を予防する援助の方法 嚥下評価・嚥下訓練の方法 ・誤嚥を予防するための食事への援助方法	演習 グループワーク	レポート 事前課題A	佐藤敬子 （専任教員）

10		<p>2) 以下の状況等の事例に沿った援助計画書（食事・嚥下訓練・口腔ケア）の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カロリーの不足がある</li> <li>・栄養の偏りがある</li> <li>・一人暮らしで一食分のコストが高い</li> <li>・買い物に行くのが困難である</li> <li>・咀嚼能力の低下がある</li> <li>・誤嚥しやすい</li> </ul>	<p>演習 グループ ワーク</p>	<p>レポート 計画書 (グループ)</p>	
11 ・ 12		<p>3) 計画書を基に実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①調理実習</li> <li>②嚥下機能評価（チェックリスト）</li> <li>③嚥下訓練体操</li> <li>④食事（指導・介助）</li> <li>⑤口腔ケア</li> </ol>	<p>演習 グループ ワーク</p>	<p>レポート (個人)</p>	
13		<p>2. 「活動」を維持するための援助</p> <p>1) 以下の状況にある人への、残存機能の維持、気分転換、他者との関係づくりの等を目的としたレクリエーションの計画書を作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脳梗塞による片麻痺がある、認知症がある等</li> </ul>	<p>演習 グループ ワーク</p>	<p>レポート 事前課題B</p>	
14		<p>2) 計画書を基に実施</p>	<p>演習 グループ ワーク</p>	<p>レポート (個人)</p>	
15	<p>人生の最期を迎えた患者と遺族への援助</p>	<p>1. エンゼルケア（死後の処置）</p> <p>1) 以下について調べ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エンゼルケアの意義</li> <li>・死を迎えた人を尊重した態度とは</li> <li>・エンゼルケア時に問題となる感染リスクと予防</li> <li>・エンゼルケアの手順と留意点</li> <li>・エンゼルメイクの目的、基本手技、留意点</li> <li>・遺族の心理</li> </ul>	<p>演習 グループ ワーク 演習</p> <p>講義</p>		
16		<p>2. エンゼルケアの実際</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) エンゼルケア、エンゼルメイク</li> <li>2) 遺族への声かけ</li> </ol>	<p>演習 グループ ワーク</p>		
17	<p>腎・泌尿器の疾患をもつ高齢者の看護</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢に伴う排泄・生殖機能の変化</li> <li>2. 高齢者に多い腎・泌尿器の治療を受ける患者への援助 尿路感染症、前立腺肥大症</li> <li>3. 尿漏れに対する援助</li> </ol> <p>1) 以下について調べ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尿漏れの要因</li> <li>・尿漏れを予防する方法</li> <li>・尿漏れに備えた衣類</li> </ul>	<p>演習 グループ ワーク</p>		

		2) 尿漏れのある高齢者への援助計画書の作成			
18		3) 計画書を基に実施 *実施後は、意見交換し学びを共有しよう	演習 グループワーク	レポート (個人)	
19	皮膚の疾患をもつ高齢者の看護	1. 加齢に伴う皮膚の形態機能の変化 高齢者の皮膚の保清の意義 2. 高齢者に多い皮膚の疾患をもつ患者の看護 老人性皮膚乾皮症、疥癬、白癬 3. 高齢者の皮膚のトラブルへの援助 1) 以下について調べ学習 ・高齢者の皮膚トラブルの要因、アセスメント視点 ・高齢者の皮膚トラブルの予防	講義  演習 グループワーク		
20		2) 軟膏塗布、包帯法、テープの貼り方・剥がし方	演習 グループワーク		
21 ・ 22	感覚器の疾患をもつ高齢者の看護	1. 老視、老人性難聴のある高齢者にわかりやすい伝え方 *事例提示 1) 退院指導用パンフレットを作成	演習 グループワーク		
23		2) 退院指導の実施 *患者役は、高齢者体験用ゴーグルを着用	演習 グループワーク	レポート (個人)	

#### 【事前学習A】

- |   |                        |
|---|------------------------|
| 1) 消化機能、免疫機能の加齢的变化                          | 1) 運動機能の加齢的变化          |
| 2) 高齢者の栄養摂取基準                               | 2) 転倒発生の要因             |
| 3) 高齢者の筋肉量を維持するための栄養素・食品<br>(タンパク質・乳製品)の摂り方 | 3) 転倒による二次的障害および生活への影響 |
| 4) 嚥下機能の低下と食生活および栄養との関連性                    | 4) レクリエーションの意義、種類、方法   |
| 5) 歯周病、歯の欠落と栄養の関連性                          |                        |

評価方法 筆記試験 レポート

テキスト：老年看護学 医学書院

老年看護 病態・疾病論 医学書院

成人看護学 医学書院(脳・神経、腎・泌尿器、眼、皮膚、耳鼻咽喉、歯・口腔)

基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

**科目名：老年看護学実習Ⅰ 単位：2 時間：90 2年後期****科目設定理由**

人口・世帯構造の変化や少子高齢化の進展に伴い、高齢者と生活を共にする若者世代が減少している。そのため、老年期にある対象の特徴理解が乏しく、高齢者への関わりに困難を示す学生も少なくない。本実習では、老年期にある対象の生活の場となる介護老人保健施設・特別養護老人ホーム・認知症対応型通所施設・回復期リハビリテーション病棟などで高齢者と実際に関わる。そして、老年期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を把握し、施設や病棟の概要、看護師の役割を学び、日常生活の援助を通して、高齢者の意思を尊重する関わりや生活機能の維持や回復を促す関わりを学ぶための科目とする。

**学習目標**

老年期にある人の特徴と生活状況を把握し、必要な看護が実践できる。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1	老年期にある対象の日常生活における看護の実践	1. 施設の概要および看護師の役割が説明できる。 2. 利用者が必要としている日常生活の援助ができる。	実習 介護老人保健施設 エミネンス 芦ノ牧	
2		1. 施設の概要および利用者の特徴が説明できる。 2. 利用者が必要としている日常生活の援助ができる。	実習 特別養護老人ホーム 芦ノ牧ホーム	
3		1. 施設の概要および利用者の特徴が説明できる。 2. 利用者が必要としている日常生活の援助ができる。	実習 小規模多機能型居宅介護 オレンジ	
4		1. 病棟の概要および患者の特徴が説明できる。 2. 患者の身体機能の回復に向けての援助ができる	実習 竹田総合病院 回復期リハビリテーション病棟	

評価方法 実習記録 実習態度

**科目名：老年看護学実習Ⅱ 単位：2 時間：90 3年前後期****科目設定理由**

今日、入院患者層はますます高齢者の増加傾向にある。高齢者は、疾病や入院という環境の変化で、身体的にも精神的にも大きな影響を及ぼし、QOL低下を招きやすい。また、そのことで退院後の生活の変更を余儀なくされる可能性もある。看護過程を展開し、老年期にある対象とその家族を理解する。さらに、機能回復・維持及び入院早期から退院を目指した援助を行う。また、加齢に伴う衰退の面だけではなく、高齢者の持つ可能性や意志を尊重した関わりを学ぶための科目とする。

## 学習目標

老年期にある患者とその家族に必要な看護が実践できる。

## 授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1	老年期にある患者とその家族に必要な看護の実践	1. 老年期にある患者の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 2. 患者とその家族に身体の機能回復・維持を考慮した援助ができる。 3. 退院支援における看護師の役割がせつめいできる。	実習 各病棟	

評価方法 実習記録 実習態度

## 《小児看護学》

### 目的

小児各期の特徴を理解し、あらゆる健康レベルにある小児と家族の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を修得する。

### 目標

1. 小児期にある対象の特徴と小児看護の役割を理解する。
2. 小児の成長・発達を助長するための日常生活の援助の方法を理解する。
3. 小児の成長・発達や健康に及ぼす環境要因を理解し、健康の保持増進および疾病の予防の重要性を認識する。
4. 小児の健康問題を統合的に理解し、健康障害をもつ小児と家族の看護が実践できるための基礎的知識・技術・態度を修得する。

**科目名：小児看護学概論 単位：1 時間：15 1年後期**

**講師名：間瀬陽子（専任教員） [実務経験：看護師として竹田総合病院で17年]**

### 科目設定理由

少子高齢社会を迎えて、子供を取り巻く環境は急速に変化している。この変化の中で、次代を担う子どもの健康を守り、より健康的な成長・発達をとげられるように看護の役割は大きい。本科目は、子どもと家族の概況や倫理的視点から小児看護の役割と課題を理解するものであり、小児看護学方法論ⅠⅡⅢ、小児看護学実習ⅠⅡの基盤となる科目とする。

### 学習目標

1. 小児看護の対象を理解する。
2. 小児看護の目標を理解できる。
3. 小児看護の役割と倫理を理解する。
4. 小児を取り巻く保健・医療・福祉の動向を理解する。
5. 小児看護学で用いられる理論を理解する。
6. 小児看護の現状と課題を理解する。

## 授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1	小児看護の対象 小児看護の目標と役割	1. 子どもの特徴 2. 子どもと家族 3. 小児看護の目的・目標	講義	課題提示

		4. 家族の機能と役割		
2 ・ 3	小児と家族の諸統計	1. 日本の人口構造 2. 出生と家族 3. 小児の死亡統計 4. 児童虐待 5. 子育て支援	グループワーク 発表	課題提示
4	小児看護の変遷	1. 諸外国の児童観・小児医療の変遷 2. 日本の児童観・育児観の変遷 3. 日本の看護の変遷 4. 現代の小児看護	講義	
5	小児看護の倫理	1. 子どもの権利条件 児童福祉 2. 子どもの人権に関する法律 3. 医療現場でおこりやすい倫理問題	講義	課題提示
6	小児の保健、政策	1. 小児の保健 政策の歴史	講義	50分
7	小児看護学で用いられる理論	1. ピアジェの認知発達理論 2. エリクソン自我発達理論 3. ボウルビイの愛着理論 4. セルフケア理論 5. 家族理論 6. ハヴィガーストの発達理論	グループワーク 講義	
8	小児看護の課題	1. 疾病構造の変化と小児看護 2. 社会の変化と小児看護 3. 小児看護の専門分化 4. 病児と家族の看護	グループワーク 講義	課題提示 (おもちゃ 作り)

評価方法 筆記試験 レポート

テキスト：小児看護学〔1〕 小児看護学概論／小児臨床看護総論、 医学書院  
厚生指針増刊 国民衛生の動向

参考文献 子ども白書  
子どものからだと心白書

**科目名：小児看護学方法論Ⅰ 単位：1 時間：30 1年後期**

**科目設定理由**

少子高齢社会を迎えて、子供を取り巻く環境は急速に変化している。この変化の中で、次代を担う子どもの健康を守り、より健康的な成長・発達をとげられるように看護の役割は大きい。本科目は、子どもと家族の概況や倫理的視点から小児看護の役割と課題を理解するものであり、小児看護学方法論ⅠⅡⅢ、小児看護学実習ⅠⅡの基盤となる科目とする。

**学習目標**

1. 小児の成長・発達と健康の評価を理解する。
2. 小児の栄養と基本的生活習慣の自立へ向けての養護を理解する。

授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1	小児の成長・発達	1. 成長・発達の概念 2. 成長・発達の原則 3. 成長・発達に影響する因子 4. 成長・発達の評価	講義		医師 (竹田綜合病院 小児科)
2	新生児期の子どもの成長・発達	1. 新生児の定義 2. 形体的特徴 3. 生理的特徴	講義		
3	乳児期の子どもの成長・発達	1. 乳児期の定義 2. 形体的特徴 3. 機能的特徴	講義		
4	幼児期の子どもの成長・発達	1. 幼児期の定義 2. 形体的特徴 3. 機能的発達 4. 精神・運動機能の発達 5. 免疫と予防接種	講義		
5	学童期の子どもの成長・発達	1. 学童期の定義 2. 身体的特徴 3. 機能的特徴	講義		
6	思春期の人々の成長・発達	1. 思春期の定義 2. 身体的特徴 3. 機能的特徴	講義		
7	まとめ	成長・発達のまとめ	講義		
8 9 10	乳・幼児期の栄養	1. 新生児期の栄養 授乳 人工乳の飲ませ方 排気 2. 乳児期の栄養 栄養と離乳 離乳食の作り方 3. 幼児期の栄養 食生活と食育	講義 演習		助産師 (竹田綜合病院) 助産師
11	新生児期の養育	1. 日常生活の世話 2. 事故防止 3. 感染予防 4. 家族関係の調整 5. 愛着形成	講義		
12	乳児期の養育	1. 日常生活の世話 2. 事故防止 3. 乳幼児突然死症候群とその予防 4. 育児支援	演習		
13	幼児期の養育	1. 日常生活の世話 2. 事故防止 3. 生活習慣の改善 4. 育児支援	講義		
14	遊びの援助	乳児と幼児の遊びの支援	講義		保育士 (竹田綜合病院内保育)



					園)
15	学校保健	1. 学童期によくみられる健康問題・保健統計 2. 不適応行動・症状 3. 子どもを取り巻く諸環境 4. 学校保健 5. 健康教育	講義		養護教諭 (小学校)
16	学童期	1. 成長・発達と食品の選択 2. 学童期の栄養	講義		管理栄養士 (竹田総合病院)

評価方法 筆記試験

テキスト：小児看護学〔1〕 小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院

**科目名：小児看護学方法論Ⅱ 単位：1 時間：15 1年後期**

**科目設定理由**

小児期には特有の疾患がある。本科目では、小児期に多い疾患、特有の症状、疾病発生メカニズム、検査、治療法を理解する。これにより、疾患・健康問題をもつ子ども・家族への看護援助に必要な知識を身につけるための科目とする。

**学習目標**

1. 小児期に多い疾患、特有な症状、疾病発生メカニズム、検査、治療法に関する知識を習得する。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1	小児に多い疾患の病態、症状、検査、治療 新生児 乳児	新生児仮死 低出生体重児の特徴と疾患 出血性疾患、呼吸窮迫症候群 乳児栄養障害	講義		医師 (竹田総合病院 小児科)
2	感染症	麻疹、風疹、水痘、突発性発疹、手足口病発疹、ポリオ、流行性耳下腺炎、日本脳炎、百日咳、ジフテリア、破傷風、川崎病	講義		
3	呼吸器疾患 悪性新生物	肺炎、喘息、神経芽細胞腫	講義		
4	消化器疾患	口唇裂、口蓋裂、腸管閉塞症、乳児下痢症、ヒルシュスプリング病、先天性胆道閉鎖	講義		
5	循環器疾患 血液	先天性心疾患、突然死、血友病、紫斑病、白血病	講義		
6	腎、泌尿器疾患 神経、筋	糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、脳性麻痺、熱性けいれん	講義		
7	内分泌疾患 代謝性疾患 皮膚疾患	小人病、巨人症、肥満症、アセトン血性嘔吐症、脂漏性皮膚炎、汗疹	講義		
8	まとめ			50分	



3	成長・発達にあわせた 遊びの援助 プレパレーション	1. 遊びの援助 2. プレパレーション 3. 活動制限が必要な子ども・家族への看護 4. 子どもの発達に応じた日常生活の援助	講義		
4	健康問題をもつ子どもと家族への看護① 継続看護・外来看護	1. 医療的ケアの必要な子ども・家族への看護 1) 入院生活から在宅への移行に向けた支援 2) 多職種連携と社会資源の活用 2. 外来における子ども・家族の看護 1) 外来における緊急度の把握・トリアージ 2) 外来における感染症対策 3) 受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減 4) 健康診査			
5 5 8	健康問題をもつ子どもと家族への看護② 疾患と看護	1. 子どもに特有な疾患と看護 1) 感染症と看護 2) 呼吸器疾患と看護	講義		看護師
		3) 循環器疾患と看護 4) 消化器疾患と看護			
		5) 血液・造血器疾患と看護 6) 悪性新生物と看護			
		7) 腎・泌尿器疾患と看護 8) 代謝・内分泌疾患と看護		8回目 50分	
9	健康問題をもつ子どもと家族への看護③ 経過と看護	1. 疾病の経過と看護 1) 急性・回復期の特徴と看護 および急性症状の看護（発熱、脱水、下痢・嘔吐、呼吸困難、痙攣） 2) 慢性期の特徴と看護 3) 周手術期の特徴と看護 4) 終末期の特徴と看護	GW 事例 糖尿病で 学童期	50分	間瀬 陽子 （専任教員）
10 5 16	健康問題をもつ子どもと家族への看護④ 看護の展開	急性期にある子ども・家族への看護 RSウイルス気管支炎 乳児期			

		急性期にある子ども・家族への 看護 川崎病 幼児期			
		慢性期にある子ども・家族への 看護 ネフローゼ症候群 幼児期			
		終末期にある子ども・家族への 看護 白血病 学童期			

評価方法 筆記試験 レポート

テキスト：小児看護学〔1〕 小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院

小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院

参考文献：写真でわかる小児看護技術 株式会社インターメディカ

### 科目名：小児看護学実習Ⅰ 単位：1 時間：45 2年後期

#### 科目設定理由

少子高齢社会において、学生は子どもと触れ合い成長・発達について学ぶ機会が少ない。そこで地域の子どもたちの生活や学習の場（保育園・小学校・支援学校・発達支援施設）で実習を行う。子どもたちと一緒に遊び、学び、活動を通して健康な子供たちから学ぶとともに、健康を支援する養護教諭や看護師の役割を学ぶ科目とする。また、支援学校や発達支援施設においては、健康問題を抱えながら生活する児童・生徒と触れ合い、実際の援助場面を通して学び、小児看護学実習Ⅱにつながる科目とする。

#### 学習目標

- あらゆる健康レベルにある小児との関わりを通して、成長・発達やその対象を取り巻く環境を理解する。

#### 授業計画

回数	学習課題	行動目標	学習形態	備考
1	健康な小児の理解 乳児～幼児期	<ol style="list-style-type: none"> <li>乳幼児に親しみをもって関わることができ、コミュニケーションがとれる。</li> <li>乳幼児の言動や遊びに見られる発達段階の特徴（形態的、精神・運動機能）が説明できる。</li> <li>乳幼児の発達段階に合わせた生活の世話を保育士とともにできる。</li> <li>発達段階に応じた遊びの種類と保育士の関わりが説明できる。</li> <li>乳幼児の安全を守るために必要な環境を述べることができる。</li> </ol>	実習  保育園 （会津婦人会 保育園）	15時間
2	健康な小児の理解 学童期	<ol style="list-style-type: none"> <li>児童にとっての保健室の役割が説明できる。</li> <li>児童とのかかわりを通して、成長・発</li> </ol>	実習	7.5時間

		達の実際を知り、健康な児童について説明できる。 3. 学校における健康管理の実際を知り、学童期の健康問題が説明できる。	市内小学校	
3	健康問題をもつ小児の理解 学童期	1. 支援学校の概要が説明できる。 2. 児童・生徒とのかかわり、日常生活や授業の実際を知る。	実習 養護学校 (県立会津養護学校 竹田分校)	7.5 時間
4	健康問題をもつ小児の理解 発達支援	1. 施設の概要と活動内容が説明できる。 2. 子どもの成長や発達に合わせた生活の援助(遊びを含む)ができる。	実習  総合発達支援 プラザ ふらっぷ	15 時間

評価方法 実習記録 実習態度

参考資料・課題：実習要項参照

**科目名：小児看護学実習Ⅱ 単位：1 時間：45 3年前後期**

#### 科目設定理由

子どもの疾病は急性の経過をたどることが多いが、回復も早く、入院期間が短い。病気や障害による入院は、患児だけでなく家族にも大きな影響を与える。本科目では疾病や障害を持つ子どもを受け持ち、看護展開する。患児・家族への看護の必要性を考えられ、必要な看護技術を指導下で実施できることを目標とする。また、入院・外来・在宅など患児を取り巻く環境や生活の場における看護を体験を通して理解する科目とする。

#### 学習目標

1. 患児とその家族を理解し、成長・発達段階、健康レベルに応じた看護が実践できる。

#### 授業計画

回数	学習課題	行動目標	学習形態	備考
1	患児とその家族の看護	1. 患児の成長・発達段階・健康障害の状態および家族の状況が説明できる。 2. 小児の特徴を踏まえ安全・安楽・自立を考慮した援助ができる。 3. 小児看護における基本的技術が体験できる。	実習  竹田総合病院 こども病棟・ 小児科外来	45 時間

評価方法 実習記録 実習態度

参考資料・課題：実習要項参照



6		2) 死亡に関する動向 3) 妊娠人工中絶の動向 2. 母性看護に関する組織と法律		
7	母性看護の倫理	1. 性といのち 2. 倫理的問題と看護 (人工妊娠中絶・出生前診断・高度生殖医療・胎児医療) 3. 母性看護とチーム医療	講義	○
8 9 10 11 12 13 14	ライフサイクルにおける女性の健康と看護	1. 思春期の健康と看護 2. 成熟期の健康と看護 3. 更年期の健康と看護 4. 老年期の健康と看護	演習 グループワーク・発表	○ 課題レポート
15	母子保健をめぐる問題	1. 児童虐待 2. 性差と女性の問題	講義	○ 50分
16	母性看護の展開方法	1. 母性看護における看護過程 2. ウェルネス看護診断の考え方	講義	◎ 50分

#### 評価方法・基準

筆記試験 レポート

テキスト：母性看護学〔1〕 母性看護学概論 医学書院

国民衛生の動向（○）

ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医師薬出版（◎）

参考文献：母子保健の主なる統計・わが国の母子保健

### 科目名：母性看護学方法論Ⅰ 単位：1 時間：30 2年後期

#### 科目設定理由

妊娠期・分娩期は、常に母子2つの生命に関わり、妊娠経過・分娩経過はその後の母子の健康状態に大きく影響する。妊娠期は、40週の経過の間に様々な生理的变化が起こるため、妊娠週数に応じた経過をたどっているか、逸脱した徴候がないか見極めることが必要となる。分娩期は生理的变化がダイナミックに刻々と変化するため、正常な経過の理解とともに産婦が主体的に出産に臨めるような支援が必要となる。新生児期は胎内生活から胎外生活へと大きく変貌する時期であり、生理的な経過の理解が必要となる。多くの学生は妊娠期・分娩期・新生児期についてイメージすることが難しい。そのため、妊婦・産婦・新生児の事例展開をしながら、正常な経過にある妊婦・産婦、新生児とその家族のアセスメントと看護について学ぶ科目とする。

#### 学習目標

1. 妊婦・産婦の身体的・心理・社会的特徴と看護を理解する。
2. 産婦の分娩進行に伴う心身の安全と安楽を促進するための看護を理解する。
3. 新生児の生理的経過を理解する。

#### 授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1	妊婦の身体的・心理・社会的特徴	1. 妊娠の生理と経過 2. 胎児の発育と生理	講義		助産師 (竹田)

		3. 母体の生理的变化 4. 妊婦の心理・社会的特性			綜合病院)
2	妊婦と胎児のアセスメント	1. 妊娠経過の診断 2. 胎児の発達と評価法 3. 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 4. 母親役割過程のアセスメント	講義 VTR		
3	妊婦と家族の看護	1. 母子保健サービス 2. 保健相談の実際 3. 親になるための準備教育	講義		
4	妊婦の事例展開	妊婦のアセスメントと看護	演習	◎	
5					
6	分娩の要素と分娩経過	1. 分娩の3要素 2. 分娩の機序 3. 分娩の進行と産婦の身体的変化 4. 胎児に及ぼす影響 6. 産婦と家族の心理	講義		助産師 (竹田綜合病院)
7	産婦・胎児・家族のアセスメント	1. 産婦と胎児の健康状態のアセスメント 2. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント	講義		
8	産婦と家族の看護	1. 看護目標と産婦のニード 2. 分娩第Ⅰ期から第Ⅳ期の看護	講義		
9	妊産婦に用いる看護技術	1. レオポルド触診法 2. 胎児心音聴取(ドップラー・NST) 3. 妊婦体操 4. 分娩時補助動作・呼吸法、産痛緩和	講義 実習	50分	
10	産婦の事例展開	産婦のアセスメントと看護	演習		
11					
12	新生児の生理	1. 新生児の形態・機能 2. ビリルビン代謝と生理的黄疸	講義		
13	新生児のアセスメント	1. 出生直後の評価 2. 発育・奇形の評価 3. 母子関係における新生児の評価 4. 新生児の健康状態のアセスメント	講義		認定看護師 (竹田綜合病院)
14	新生児の看護	1. バイタルサイン測定 2. 全身の観察 3. 身体計測 4. 新生児の栄養 5. 新生児の安全、感染予防	講義 演習		
15 16	新生児の事例展開	新生児のアセスメントと看護	演習	16回目 50分	

評価方法 筆記試験

テキスト：母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院

ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程、医歯薬出版株式会社(◎)



**科目名：母性看護学方法論Ⅱ 単位：1 時間：30 2年後期**

**科目設定理由**

産褥期は生理的現象として経過する時期であるが、出産し実際に育児が始まることで身体的にも心理的にも著しい変化が起こる時期である。さらに家族形態にも大きな変化が起こるため、産褥期を正常に経過し、親役割・家族役割を果たせるための援助が重要である。新生児期の生理的特徴をすでに学んでいるが、新生児が正常に経過するためには多くの援助を必要とする。母性看護学概論でウェルネス志向、母性看護学方法論Ⅰで妊娠期・分娩期・新生児期の看護を学んだ既習の知識・技術・態度をふまえ、事例を用いながら正常な経過にある母子とその家族の看護展開について学ぶ科目とする。

**学習目標**

1. 褥婦の身体的・心理的・社会的特徴と看護を理解する。
2. 母親役割獲得や母子愛着形成の促進、家族関係再構成への看護を理解する。
3. 育児に関する看護技術を理解する。
4. 産褥期・申請時期における母子と家族への看護の展開ができる。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1 2	産褥期の身体的変化	1. 産褥の定義 2. 全身の変化 3. 退行性変化 4. 進行性変化	講義		助産師 (竹田綜合病院)
3	産褥期の心理的・社会的変化	1. 母親への適応過程 2. マタニティブルース 3. 愛着・絆形成 4. ソーシャルサポート	講義		
4	身体的機能の回復および進行性変化への看護	1. 母乳育児への支援 2. 褥婦のセルフケア不足に対する看護 3. セルフケア能力を高める看護	講義		
5	褥婦と家族の看護	1. 家族の心理的変化 2. 家族関係の再構築 3. 施設退院後の看護	講義		
6	褥婦の観察 育児に関する看護技術①	1. 復古現象の観察と促進方法 2. 産褥体操 3. リラクゼーションマッサージ 4. 直接授乳支援	講義 演習		
7 8	褥婦の事例展開	褥婦のアセスメントと看護	演習	◎ 8 回目 50 分	
9	育児に関する看護技術②	1. おむつ交換 2. 安全な抱き方・寝かせ方 3. 児の清潔（更衣・沐浴）	講義 演習	実習室	猪俣沙織(専任教員)
10 11		沐浴	学内実習	実習室 11 回目 90 分	

12 13 14 15	産褥期・新生児期にある母子と家族への看護の展開	事例演習 ウェルネス看護診断に基づいた褥婦・新生児と家族のアセスメントと看護	演習	◎	
----------------------	-------------------------	---	----	---	--

評価方法 筆記試験 レポート

テキスト：母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院

ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程、医歯薬出版株式会社

**科目名：母性看護学方法論Ⅲ 単位：1 時間：15 2年後期**

科目設定理由

母性看護学方法論Ⅲでは、医療的管理下における監視が必要な状況をハイリスクととらえ、妊娠期・分娩期・産褥期、新生児期においてハイリスクな状況にある対象とその家族への看護を学ぶ科目とする。

学習目標

1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の異常とその看護を理解する。

授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1 2	妊娠期の異常	1. 妊娠期の感染症 2. 異常性妊娠 3. 妊娠悪阻 4. 血液型不適合妊娠 5. 多胎妊娠 6. 流産・早産 7. 常位胎盤早期剥離 8. 前置胎盤 9. 妊娠高血圧症候群 10. 妊娠糖尿病	講義		医師（竹田 総合病院産 婦人科）
3	分娩期の異常	1. 前期破水 2. 帝王切開術 3. 分娩時異常出血 4. 胎児機能不全 5. 陣痛異常（微弱神通、過強陣痛）	講義		
4	産褥期の異常	1. 子宮復古不全 2. 産褥熱	講義		

		3. 乳腺炎 4. 産褥精神障害			
5	新生児期の異常	1. 新生児一過性多呼吸 2. 呼吸窮迫症候群 3. 胎便吸引症候群 4. 高ビリルビン血症	講義		
6 7 8	ハイリスクな状況にある人と家族の看護	1. 妊娠の異常と看護 2. 分娩の異常と看護 3. 産褥の異常と看護 4. 新生児の異常と看護	講義	8回目 50分	猪俣沙織 (専任教員)

評価方法 筆記試験

テキスト：母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院

**科目名：母性看護学実習 単位：2 時間：90 3年前後期**

科目設定理由

母性看護学実習では、1組の母子を受け持ち、ウェルネス志向にもとづいて看護展開を行う。また、産科外来・分娩室・GCU実習も含めて、妊娠・分娩・産褥期および新生児期の生理的な経過や正常からの逸脱のアセスメント・看護について学ぶ科目とする。

学習目標

周産期にある対象とその家族および看護の役割を理解し、必要な看護が実践できる。

授業計画

回数	学習課題	行動目標	学習形態	備考
1	周産期にある対象への看護	1. 妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 2. 妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児およびその家族に必要な援助ができる。 3. GCUに入院する新生児の特徴および看護が説明できる。	実習  竹田総合病院 産科病棟 周産母子室 (分娩室・GCU)  産科外来	90時間

評価方法 実習記録 実習態度

# 統 合 分 野

## 《在宅看護論》

### 目 的

在宅看護者とその家族を理解し、在宅看護に必要な基礎的知識・技術・態度を修得する。

### 目 標

1. 在宅看護者とその家族の特徴を理解する。
2. 在宅看護の意義と役割を理解する。
3. 地域ケア体制を理解する。
4. 在宅看護に必要な基礎的知識・技術・態度を修得する。

**科目名：在宅看護概論 単位：1 時間：15 1年後期 講師：大房博江（専任教員）**

### 科目設定理由

平均寿命やがん罹患後の生存年数の延伸など、社会情勢の変化や医療の発展に伴い、医療・介護に対する人々のニーズも変化してきた。その変化に対応するため、地域包括ケアシステムの構築が推進されている。そのため、在宅看護の対象者の理解、看護師の役割と機能、訪問看護にかかわる制度、日本を含めた世界の訪問看護の動向などを学び、在宅看護の基礎となる科目とする。また、在宅看護方法論Ⅰ、在宅看護方法論Ⅱ、在宅看護論実習Ⅰ、在宅看護論実習Ⅱの基盤となる科目とする。

### 学習目標

1. 在宅看護の現状から、在宅看護の目的と特徴を理解する。
2. 家族を含めた在宅看護の対象者の特徴を理解する。
3. 在宅看護を実践する看護師の役割と機能を理解する。
4. 在宅看護にかかわる制度の概要を理解する。

### 授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考
1	在宅看護の目的と特徴	在宅看護の現状 1) 在宅看護の場のひろがり 2) 在宅看護に求められていること	講義	
2 3		在宅看護にかかわる最近のトピックス	演習 グループワーク	
4	在宅看護における看護師の役割と機能	1. 地域連携システムの必要性 2. 医療ニーズに応じた継続的な看護師の役割 3. 在宅看護に関わる倫理的課題	講義	
5	在宅看護の対象者の特徴	1. 対象者の特徴 1) 年齢・疾患からみた対象者の特徴 2) 在宅療養状態別にみた対象者の特徴 2. 家族の特徴 1) 在宅看護の対象者としての家族	講義	

		2) システム理論を用いた家族のとりえ 方		
6 7	在宅看護のしくみ	1. 訪問看護制度の創設と発展経緯 2. ケアマネジメントの概念と機能 3. 介護保険制度 1) 介護保険制度の目的 2) 介護保険制度のしくみ 4. 訪問看護制度 1) 訪問看護ステーションに関する規定 2) 訪問看護の利用までの手順 3) 利用者が支払う利用料	講義	
8	世界の訪問看護の動向	アメリカ、デンマーク、イギリス等の訪問看護の現状	演習 グループワーク	50分

評価方法 筆記試験  
テキスト：在宅看護論 医学書院

**科目名：在宅看護方法論Ⅰ 単位：2 時間：45 2年後期**

科目設定理由

在宅看護では、対象者の様々なニーズに対応するために、多職種と連携をはかり、チームでケアを行うことが必要になる。そのため、在宅に関わる多職種・多機関の役割、サービスの内容や仕組みを学ぶ科目とする。また、この科目は在宅看護方法論Ⅱ、在宅看護論実習Ⅰ、在宅看護論実習Ⅱの基盤となる科目であり、在宅での看護技術や在宅看護に多い疾患のアセスメント視点、訪問時のマナーについて学ぶ科目とする。

学習目標

1. 在宅看護を展開するための、介護サービス、社会資源の活用の実際を理解する。
2. 在宅における他職種との連携を理解する。
3. 在宅で求められる看護技術の特徴と援助方法を理解する。
4. 在宅における看護過程の特徴を理解する。

授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1	訪問のマナー	1. 在宅看護に必要な面接の技術 2. 訪問時のマナーにつながる接遇	演習	招致 講義	接遇研修 主宰
2	ケアマネジメントの概念と機能	1. ケアマネジメントとは 2. ケアマネジメントの構成要素と機能 3. 介護保険制度のケアマネジメント 4. 介護保険制度	講義		介護支援専門員（竹田指定居宅介護支援事業所）
3 4		1. 介護保険制度と関係職種の機能 1) 介護保険の被保険者 2) 介護サービスの利用 3) 介護予防サービスの利用 4) 地域包括システム	講義		

		2. 居宅介護支援事業所・地域包括支援センターの役割 1) 介護支援専門員の役割 2) ケアプランとは			
5 ～ 7	社会資源、介護サービスの活用の実際	ケアプランの実際（事例を通して）	講義 演習		
8 9	在宅におけるリハビリテーションの実際	1. 在宅におけるリハビリテーションの意義 2. 国際生活機能訓練（ICF）の目的、活用の意義 3. 在宅における移動・移乗の介助に関するポイント 4. 訓練の実際（寝返りの介助、立ち上がりの介助）	講義 演習		作業療法士（竹田訪問看護ステーション）
10	訪問看護制度に基づく訪問看護の内容	1. 訪問看護の利用者 2. 訪問看護の内容 3. 医師および多職種との連携 4. 医療機関と訪問看護の連携	講義		
11	在宅看護における安全性の確保	在宅看護における安全性の確保 1) 在宅看護におけるリスクとは 2) 医療事故防止 3) 感染防止 4) 療養生活上の安全の確保 5) 災害時の在宅看護	講義		
12 ～ 14	在宅看護で求められる看護技術の応用	在宅で求められる看護技術の応用 1) 在宅看護の機能を支えるコミュニケーション技術 2) 日常生活に関する在宅看護の技術 呼吸機能、食生活・嚥下、排泄、移乗・移動、清潔 3) 医療に関する在宅看護の技術 褥瘡、留置カテーテル、ストーマ、経管栄養、在宅中心静脈栄養法、非侵襲的陽圧換気療法、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、疼痛緩和	講義 演習		認定看護師（竹田訪問看護ステーション）
15 ～ 23	在宅看護の展開の実際	在宅における看護過程の事例展開 1) 脳卒中をおこした患者の在宅看護導入の事例展開 2) パーキンソン病の療養者に対する患者の在宅看護の事例展開 3) 認知症の療養者に対する在宅看護の事例展開 4) 小児の療養者に対する在宅看護の事例展開 5) ALSで人工呼吸療法を実施する療養の在宅看護の事例展開 6) COPDの療養者に対する在宅看護	講義 演習	1回 50分	

		護の事例展開 7) 独居の療養者に対する事例展開 8) 終末期の療養者に対する在宅看護 の事例展開			
--	--	--	--	--	--

評価方法 2～7 レポート 8～23 筆記試験

テキスト：在宅看護論 医学書院

**科目名：在宅看護方法論Ⅱ 単位：1 時間：30 3年前期**

**科目設定理由**

概論、方法論Ⅰの既習内容をふまえ、在宅療養者とその家族に対する看護過程を学ぶ科目である。在宅療養者の年齢・疾患・病期・家族構成などからアセスメントを行い、在宅看護の実際について学ぶ。療養者と介護者である家族のセルフケアをめざした看護上の課題を捉え、看護の視点を学ぶ内容とする。また援助計画は、療養者と家族の日常生活に沿った実践可能である内容でありたい。さらに介護保険制度や医療保険制度による社会サービスの活用の理解を促し、統合力を養う科目とする。

**学習目標**

1. 訪問看護のプロセスを理解し、情報収集の視点とアセスメント方法を理解する。
2. 事例を基に在宅療養者および家族の立場を理解し援助のあり方を考える。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1	在宅医療と診療報酬	在宅医療に関わる診療報酬の内容	招致講義		竹田健康財団介護福祉本部事務員
2	訪問看護のプロセス	事例を用いて	講義		大房博江 (専任教員)  4、8、10、14回目 認定看護師参加
3	訪問看護のプロセス	事例を用いて	講義		
4	在宅看護の展開 事例1	事例提示、アセスメント	演習	グループワーク	
5		アセスメント	演習		
6		アセスメント、計画	演習		
7		計画	演習		
8		実施(ロールプレイング)	演習	在宅実習棟	
9		評価	演習		
10	在宅看護の展開 事例2	事例提示、アセスメント	演習	グループワーク	
11		アセスメント	演習		
12		アセスメント、計画	演習		
13		計画	演習		
14		実施(ロールプレイング)	演習	在宅実習棟	
15		評価	演習		

評価方法 レポート

**科目名：在宅看護論実習Ⅰ 単位：1 時間：45 2年後期****科目設定理由**

在宅看護では、医療や介護が必要な状態であっても住み慣れた自宅や地域で生活できるように支援する必要がある。また、対象者をサポートする家族の介護負担を軽減する支援も必要である。そのため、市町村、地域の保健・医療・福祉サービスの実際を見学することで、社会資源の活用の理解となる科目とする。さらに、在宅看護方法論Ⅱ、在宅看護論実習Ⅱの基盤となる科目とする。

**学習目標**

保健・医療・福祉の連携と在宅ケアシステムにおける社会資源の活用方法を理解する。

**授業計画**

回数	学習課題	行動目標	学習形態	備考
1	保健・医療・福祉の地域連携システムの理解	1. 居宅介護支援事業所の活動内容について説明できる。 2. 活用できる社会資源について説明できる。	臨地実習 竹田指定居宅介護支援事業所	
		1. 施設の概要と活動内容が説明できる。 2. 入所者の生活状況および看護師の役割が説明できる。	臨地実習 障がい者支援施設アガッセ	
		1. デイサービスセンターの活動内容について説明できる。 2. デイサービスセンターの看護師の役割について説明できる。	臨地実習 竹田ほほえみデイサービス	
		1. 地域包括支援センターの活動内容について説明できる。 2. 活用できる社会資源について説明できる。	臨地実習 若松第二包括支援センター	

評価方法 実習記録 実習態度



**科目名：在宅看護論実習Ⅱ 単位：1 時間：45 3年前後期****科目設定理由**

在宅療養者家族は様々な年齢・疾患・家族背景があり、対象者を捉える時、病態のアセスメントだけでなく、生活をイメージしたアセスメント力が求められる。そのため、実際に在宅療養者のお宅を訪問し、既習の知識を統合し、療養者家族が抱えている問題（体的側面、環境・生活の側面、心理的側面、家族・介護状況の側面）に目を向けた支援を学ぶ科目とする。さらに、看護師の判断や報告の場面を見ることで、在宅療養者家族をサポートする在宅ケアシステムやチームケアを学ぶ科目とする。

**学習目標**

1. 訪問看護ステーションの機能と活動内容について理解する。
2. 在宅看護者とその家族の生活場面における看護の実際を理解する。

**授業計画**

回数	学習課題	行動目標	学習形態	備考
1	在宅療養者とその家族に必要な看護の実践	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 療養者の身体的側面に対する情報の整理、解釈・分析ができる。</li><li>2. 療養者の環境・生活の側面に対する情報の整理、解釈・分析ができる。</li><li>3. 療養者および家族の心理的側面に対する情報の整理、解釈・分析ができる。</li><li>4. 療養者の家族・介護状況の側面に対する情報の整理、解釈・分析ができる。</li><li>5. 生活様式を考慮した看護援助が訪問看護師と共に提供できる。</li><li>6. 訪問者としてのマナー(態度・礼儀)を心がけることができる。</li></ol>	臨地実習 竹田訪問看護ステーション (ALSの会含む)	1 例ケース受け持つ

評価方法 実習記録 実習態度

## 《看護の統合と実践》

### 目的

これまで学んできた知識・技術を統合し、臨床実践能力の基本を確立する。

### 目標

1. チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する。
2. 医療安全の基礎的知識を理解する。
3. 看護管理の基礎的知識を理解する。
4. 災害看護の基礎的知識を理解する。
5. 国際社会における看護活動の現状を知る。

### 科目名：看護の統合 I 単位：1 時間：30 2年後期

#### 科目設定理由

現在、医療は在宅医療を推進し、「病院完結型」から「地域完結型」を目指している。このような背景もあってますますチーム医療の必要性が高まっている。ここでは、まず看護師の職能の法的側面について保健師看護師助産師法から学ぶと共に、コミュニケーション能力、カンファレンス運営などチームの一員として多職種との協働について学ぶ科目とする。

#### 学習目標

1. 保健・医療・福祉における看護職の役割を認識しチームの一員として他職種との協働について理解する。
2. チームで問題を解決するための考え方や結論を導くための方法について理解する。

#### 授業計画

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1	チーム医療の意義	1. チーム医療とは 2. 他職種との協働	講義		佐藤敬子 (専任教員)
2 ・ 3	看護師の法的責任	保健師助産師看護師法 1) 保健師助産師看護師法の構成 および内容 2) 法に基づく看護師の業務 3) 欠格事項と行政処分 4) 看護師の免許	講義		
4	チームの中の看護師 の看護師の役割	法的側面からの他職種との連携 病院内での事例を用い、医療関係 職種や事務員との役割分担につ いて考える	講義 演習		
5	薬剤師の役割	1. 薬剤師の業務、入院施設・地域に おける役割 2. 多職種との連携	講義		薬剤師 (竹田綜合 病院)
6	栄養士の役割	1. 栄養士の業務、入院施設・地域に おける役割 2. 多職種との連携	講義		管理栄養 士 (竹田綜合 病院)

7	理学療法士の役割 作業療法士	1. 作業・理学療法士の業務、入院施設・地域における役割 2. 多職種との連携	講義		作業療法士 (竹田総合病院)
8	チーム医療の実際①	1. 退院支援チームの実際 2. 多職種との連携	講義		認定看護師 (竹田総合病院)
9	チーム医療の実際②	1. 退院支援チームの実際 2. 多職種との連携	講義		医師 (竹田総合病院精神科)
10	チーム医療の実際③	1. 退院支援チームの実際 2. 多職種との連携	講義		社会福祉士 (竹田総合病院)
11	看護の場面における コミュニケーション	看護の場面での看護師と患者の関係におけるコミュニケーションの方法を考える 1. 話の伝え方 アサーションとは アサーティブな伝え方 2. 話の聞き方 視線、姿勢、うなずき、相槌	講義 演習		佐藤敬子 (専任教員)
12	看護におけるカンファレンス	1. 看護におけるカンファレンスの種類 2. カンファレンスの基本要素 3. カンファレンスの運営 1) 司会者の役割 2) 参加者の役割 3) 記録の仕方	講義 演習		
13	学生カンファレンスの要点	1. 学生カンファレンスの目的 2. カンファレンスが上手になるコツ 1) 話す力をつけよう 2) 応用する力をつけよう	講義 演習		
14 15	テーマカンファレンスの実際	臨地実習での事例に基づくテーマカンファレンスの実際 <演習内容> ・テーマの絞り込み ・テーマに合った資料を収集する ・カンファレンスへの参加姿勢 ・司会者、参加者、記録者の役割を果たす ・テーマに対する結論を導く ・カンファレンスでの学びを記録する  レポートのテーマ 効果的なカンファレンスを行うために必要な要素	演習	レポート	

評価方法 レポート

テキスト：川島みどり、杉野元子：看護カンファレンス第3版 医学書院  
私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法 日本看護協会出版会

**科目名：看護の統合Ⅱ 単位：1 時間：30 2年前後期**

**科目設定理由**

救急看護は、以前のように救急病院や救急外来での看護に限られたものではない。プレホスピタルケアや災害時の急性期、地域ケアシステムにおいても役割を求められるなど時代とともに変化している。救急看護の対象は、年齢、性別、国籍、疾患の種類、重症度を問わない。すなわち、すべての看護領域に共通するものである。そこで救急看護の概要を学び、救急時に必要な知識と技術を身につける。さらに救急患者の観察とアセスメント、主要な病態に関する救急処置と看護を学ぶ科目とする。

グローバル化が進んでいる現在、各国のできごとは、相互に影響を及ぼし合い、けっして1つの国のできごととしてはおさまらない状況にある。看護職者には、グローバルな視点が求められる。そのため、世界の健康問題の現状、国際看護学に関連する基礎知識、世界国際救済・保健医療協力分野で活躍する国際機関および国際協力のしくみ、開発途上国への開発協力を学ぶ科目とする。

**学習目標**

1. 救急看護の概要を理解する。
2. 救急医療の主要な病態について理解する。
3. 包帯法、止血法、一次救命処置が実施できる。
4. グローバリゼーションが与える健康への影響およびグローバルヘルスの概要を理解する。
5. 開発途上国の健康問題および国際協力・看護を理解する。
6. 国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関および国際協力活動を理解する。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1	救急看護の概要	1. 救急看護とは 2. 救急医療体制 3. 救急看護の場 4. 救急看護の対象 5. 救急患者の観察とアセスメント 1) 全身と外観の観察とアセスメント 2) 重症度・緊急度・トリアージ	講義		渡辺 恵美子 (専任教員)
2	主要病態に対する救急処置と看護①	1. 心肺停止状態 1) 心肺停止状態の定義 2) 救急処置と看護 一次救命処置 (BLS) 二次救命処置 (ALS)	講義 デモン トレーシ ョン		
3	救急処置の実際	一次救命処置	学内 実習		
4	主要病態に対する	1. 意識障害	講義		

	救急処置と看護②	1) 意識障害の定義と評価 JCS, GCS 2) 意識障害の原因 3) 意識障害の病態 4) 救急処置と看護	演習		
5	主要病態に対する救急処置と看護③	1. ショック 1) ショックの分類と定義 2) ショックの原因 3) ショックの病態 4) 救急処置と看護	講義 演習		教員4名
6	止血法・包帯法	1. 止血法の種類と方法 2. 包帯法の種類と方法	講義・デ モンスト レーション		
7	包帯法の実際	包帯法、基本的な巻き方	学内実習		
8 9	主要病態に対する救急処置と看護④	1. 以下の主要病態について 1) 定義 2) 原因 3) 病態 4) 救急処置 と看護をグループでまとめる ・熱傷 ・熱中症 ・溺水 ・外傷 ・急性腹症 ・中毒 ・刺咬傷	グループ ワーク 発表		
10	ME機器の原理と使用方法	1. 心電図モニター 2. 除細動器 3. 人工呼吸器	講義 演習		臨床工学 技士(竹 田綜合病 院)
11	国際看護とは	1. グローバリゼーションと健康への 影響 2. グローバルヘルスの概要	講義		菅家 志津子 (専任教 員)
12	国際看護の実際	国際看護の実際	招致講義		助産師 (産婦人科 病院)
13 ~ 15	国際協力活動	1. 世界の健康問題 2. 国際救援・保健医療協力分野で活躍する 国際機関とその活動 3. 開発途上国の現状と対策	演習 発表		菅家 志津子

評価方法 1～10 筆記試験 11～15 レポート

テキスト：救急看護 医学書院

看護がみえる①、② 基礎看護技術 メディックメディア

エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図 中央法規

看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院

**科目名：看護の統合Ⅲ 単位：1 時間：30 3年前後期**

**科目設定理由**

看護師には常に臨床場面を適切に判断し、意思決定を行い行動化する能力、いわゆる臨床実践能力が求められている。基礎看護学における各看護技術学習においては、主として各技術の確実な習得を目的としており、状況に応じた技術について学ぶ機会は限定的である。そこで、ここでは紙上事例を用いて、それぞれの状況をアセスメントし、患者の状況に応じた看護技術を学ぶ科目とする。

**学習目標**

1. 組織の成り立ちと構造を理解する。
2. 看護部の組織とマネジメントの概要を理解する。
3. 労働基準法および労働安全衛生法の一部について理解する。
4. 看護提供方式について理解する。
5. 物品管理、コスト管理を理解する。
6. 既知の知識・技術・態度を統合し、その場の患者の状況に応じた看護技術が実施できる。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1	看護管理の基礎的知識	組織とは 看護管理とは(看護する上での管理とそのプロセス) 労務管理、健康管理	講義		看護 管理者 (竹田綜合 病院)
2		看護提供方式	講義 演習		
3		看護提供方式	演習		
4		労務管理	講義		
5		業務管理(コスト管理、物品管理を含む)	講義		事務員 (竹田綜合 病院用度 課)
6 ~ 10	看護技術の復習	看護技術体験表にあるすべての技術を練習する	演習	6回目 50分	齋藤 今日子 (専任教員)
11 ~ 15	患者の状況に応じた看護技術の実施	紙上事例の提示を受け、以下を行う ①情報を整理し、解釈/分析 ②紙上の情報以外に必要な情報の把握 ③看護計画の立案(必要な物品の確認) ④看護技術の実施	演習		
16		学内実習	90分		

評価方法    筆記試験    実技試験

**科目名：看護の統合Ⅳ 単位：1 時間：30 3年前後期**

**科目設定理由**

近年国内外で、地震や風水害などの自然災害の多発や、放射線災害などの特殊災害が起きている現状である。その反面、発災を契機に防災・救済体制が整備され、学問としても発展してきた科目である。また、これまでの医療救護活動は、災害急性期に集中する傾向にあった。しかし近年では、災害の広域化・長期化によって災害サイクルの全サイクルに対応できるような体制や教育が求められている。さらに、災害弱者と呼ばれる要救護者に応じた支援や災害によってストレスを抱えている方々のこころのケアも欠かせないものである。そこで、災害の種類や災害サイクル、災害に関する法律、災害拠点病院や各医療チームの活動といった基礎知識を身に付け、各災害サイクルや要救護者に応じた心身への支援について考えられ、将来、災害時に対応できる能力を育成するための科目とする。

看護師は医療行為の最終実行者となることが多く、患者の最も近くにいる専門職であることから、医療事故の当事者になる可能性が高い。新卒看護師の1割弱が就職後1年未満の間で離職している現状にあり、その原因の一つに医療事故への不安が挙げられている。この不安を軽減するためにも、医療安全に関する最新の知識・技術を学び、主体的に安全を守る術を習得していく必要がある。わが国の安全医療対策や医療現場で取り組まれている安全対策の概略、事故発生のメカニズムと発生防止の考え方、さらに事例演習での事故分析の実際から、医療事故を回避する方策を学ぶ科目とする。

**学習目標**

1. 災害の種類、特殊性と災害看護の特徴を理解する。
2. 災害に関する認識を深め災害看護の基礎的知識を理解する。
3. 災害が心身に及ぼす影響を理解する。
4. 医療安全の考え方を理解する。
5. 事件事例を基に事故発生の要因と防止策を理解する。

**授業計画**

回数	学習課題	学習内容	学習形態	備考	講師
1	災害医療・災害看護	1. 災害とは 2. 災害の種類と健康障害 3. 災害時の役割と対象者 4. 災害時の医療の考え方	講義	DVD	大房博江 (専任教員)
2	災害サイクルと看護支援	1. 災害サイクルとは 2. 災害サイクルに応じた看護活動 3. 各災害救護チームとの連携・調整 4. 災害と情報 5. 災害と法律	講義	DVD	
3	災害急性期・亜急性期の看護①	1. CSCATTT 1) 安全の確認と確保 2) 指揮統制・救護班の立ち上げ 3) トリアージ 4) 主な外傷と応急処置 5) 搬送	講義	DVD	
4	災害急性期・亜急性期の看護②	災害急性期の看護	グループワーク	講堂	
5	災害急性期・亜急性期の看護③	災害急性期の看護	学内実習	講堂 50分	
6	災害慢性期・復興期・静穏期の看護	1. 仮設住宅における被災者の健康支援	演習	DVD	

		2. 復興期における看護の役割 3. 災害への備え、災害教育			
7	被災者の特性に応じた災害看護	1. 子どもに対する災害看護 2. 妊産婦に対する災害看護 3. 高齢者に対する災害看護 4. 障害者に対する災害看護 5. 精神障害者に対する災害看護 6. 慢性疾患患者に対する災害看護 7. 原子力災害による被災者への看護 8. 在留外国人に対する災害看護	グループワーク		8 回目 「NPO 法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会相馬広域こころのケアセンターなごみ」センター長 米倉一磨
8	災害とこころのケア	1. こころの反応 2. 被災者のこころのケア 3. 遺族のこころのケア 4. 救護者のこころのケア	講義		
9	医療安全と医療の質の評価	1. 日本の医療安全に対する取り組み 2. 医療事故等の定義・分類 3. 医療事故等の報告制度 4. 医療安全と医療の質	講義		医療安全管理者 (竹田総合病院 看護師・薬剤師)
10	事故発生メカニズムと防止策	1. 事故発生メカニズム 2. 事故分析 3. 事故対策 インシデント、アクシデント時の報告	講義		
11	事故分析の実際 (Medical SAFER 使用)	演習事例の進め方	講義	50 分	
12 13 14 15	事故分析の実際	演習事例	演習 グループ ワーク	課題提示	演習時 専任教員 1名追加
16	事故分析の実際	演習事例	演習 発表		

評価方法 1～8 筆記試験 11～16 レポート  
 テキスト：看護の統合と実践 3 災害看護学・国際看護学 医学書院  
 ナーシンググラフィカ看護の統合と実践② 医療安全 メディカ出版



**科目名：統合実習 単位：2 時間：90 3年次後期**

**科目設定理由**

看護サービスが適切に提供されるためには、チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ・リーダーシップが必要である。専門分野での臨地実習を踏まえ、3年次最後の病棟実習において実践に即した看護（複数受け持ちや夜間実習等）を体験し、常に優先順位を考えながら行動できる看護実践能力を習得する実習科目とする。また、看護マネジメント・看護管理を学べる実習科目とする。さらに、救急搬送される患者・家族の看護実践を救急室実習を通して学べる実習科目とする。

**学習目標**

既習の知識・技術を統合し、医療チームの一員として看護が実践できる。

**授業計画**

回数	学習課題	行動目標	学習形態	備考
1	医療チーム内での看護の実践	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療チームの中での看護師の役割が理解できる。</li><li>2. 看護チームの中でのチームリーダー、チームメンバーの役割が理解できる。</li><li>3. 看護の優先度の考え方を理解し、実践できる。</li><li>4. 看護管理の機能、役割が理解できる。</li></ol>	実習 竹田総合病院 各病棟	75時間 学生1人が複数の患者を受け持つ  実習期間の1日は、実習時間13:00～21:15(休憩含む)とする
2	救急搬送患者・家族の看護の実践	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 救急患者の搬送システムが説明できる。</li><li>2. 救命救急処置の見学を通して、救急看護の役割が説明できる。</li></ol>	実習 竹田総合病院 救急室	15時間

評価方法      実習記録      実習態度